

1. 件名：志賀原子力発電所2号機の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（75）

2. 日時：令和5年9月13日（水）13時30分～15時50分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：野田企画調査官、海田主任安全審査官、宮脇安全審査専門職、
原田安全審査専門職、大井安全審査専門職、岩崎分析係長

北陸電力株式会社：藤田執行役員 他9名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<本年8月31日受取済>

・志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について 敷地
近傍の断層の評価

・志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について 補足
資料

・志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について デー
タ集1（空中写真・ボーリング柱状図・ボーリングコア写真・BHT
V）

<本年8月30日受取済>

・志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について 敷地
近傍の断層の評価

・志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について 補足
資料

・ 志賀原子力発電所 2 号炉 敷地周辺の地質・地質構造について データ集 2 (音波探査記録)

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	と、規制庁の宮脇です。
0:00:06	志賀原子力発電所 2 号炉、敷地周辺海域の断層の評価についてのヒアリングを始めたいと思い
0:00:14	最初に北陸電力の方から、ヒアリング資料の修正箇所について、
0:00:20	一つ、一通りご説明いただけないでしょうか
0:00:26	はい。
0:00:28	はい北陸電力の吉田です。本日はよろしく願いいたします。
0:00:32	はいまず資料の確認をさせていただきます。
0:00:36	引地海域の周辺海域の断層の方ですが、分厚いものが、
0:00:40	1 点、本資料でございます。
0:00:43	薄いほうの補足資料、
0:00:45	あとは別途データ集電子の方で、お届けしてるかと思えます。
0:00:50	そうしましたら、海域につきましては、7 月、すいません。
0:00:54	7 月 31 日ですか。1 回目のヒアリングをしていただいて、事実確認してさせていただきますいております。
0:01:01	それを踏まえた修正について、早速ですね、石田の方から説明させていただきます。よろしく願いいたします。
0:01:09	北陸電力の菱田です。
0:01:11	それでは前回のヒアリングからの変更点を中心にご説明いたします。
0:01:15	まず、6 ページの方をお願いいたします。
0:01:22	今回資料構成を変更しております、まず会議の半径 30 キロ範囲の断層の評価につきましても、10 ページにM△図、大津、
0:01:33	示しておりますが、こちらを用いまして、敷地への影響を簡易的に検討し、相対的に影響が小さい、判断した断層について、
0:01:41	評価結果のみのページを、本資料としまして、詳細データにつきましては補足資料の方に添付をいたしました。
0:01:49	また後程ご説明いたします、連動を考慮した場合の敷地への影響についても、営業が大きいと判断されるケースで、対象の断層となる。
0:01:59	羽咋西泊与儀西撓曲、能登島班の浦断層体の二つにつきましては、影響の大きい断層と同様に、本資料で詳細データも含めて説明をいたします。
0:02:11	続いて 7 ページの方は 30 キロ以遠の断層の評価概要になりますけれども、こちらも同様に、10 ページのエムデルダ図を用いて影響検討しております、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:21	相対的に影響が大きい断層を本資料に整理しております。
0:02:26	ただしこの中で経営Z3KZ4につきましては、こちらの連動を考慮した場合に影響が大きくなる断層の対象となるため、こちら方の資料で説明することといたしまして、
0:02:37	さらに、浮遊Ⅱ一番上の冬につきましては、
0:02:41	相対的に影響が大きいのですが、調査の結果、対応する断層が認められないと評価したことから、詳細データにつきましては補足資料のほうに添付をしております。
0:02:52	続いて 14 ページの方をお願いいたします。
0:02:58	こちらは今回、連動の検討をしておりますケースについて、連動を考慮した場合の敷地への影響をM△図を用いて検討したページとなります。
0:03:09	この図に、
0:03:11	中で、敷地への影響が相対的に大きいと判断したものにつきましては、黄色ハッチをかけておりまして、
0:03:18	こちらについて、本社の方で詳細データを含めて説明をしております。
0:03:23	さらに、茶色のハッチがかかっております魚津断層体と能登半島東方沖の断層のケースにつきましては、こちらは当社が連動を考慮しているというケースになりますのでこちらも本資料のほうで詳細データも含めて説明をしております。
0:03:40	さらに、青色のハッチがかかっております、海士岬沖断層体と笹波沖断層田井東部につきましては、前回の審査会合からのコメント回答もごございますので、こちらについては詳細データも含めて本資料で説明をいたしております。
0:03:55	それ以外の連動技術につきましては、評価結果のページのみを本資料に添付しておりまして、詳細データを補足資料のほうに整理をしております。
0:04:04	はい。それでは、目次以降の方で変更点の詳細についてご説明をしていきます。
0:04:11	まず 68 ページの方をお願いいたします。
0:04:20	こちら 30 キロ以遠の文献調査結果を示した図になっていますが、
0:04:26	今年の 8 月の方にですね産総研さんの方から、外山周辺の地質図が新たに公開されておりました。
0:04:34	その結果については、特異、今回の資料に反映されてますので、次回の資料に反映させていただきたいと思っております。
0:04:42	ただし、この外山

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:45	の地質図による文献調査結果に関連しますとヤマニシ側会議断層ですとか魚津断層体能登半島東方沖の断層、
0:04:53	あとはトナミへや断層体の西部と久里浜断層隊が今回の資料におつけしていますけれども、その活動性評価ですか、長さの評価の結果には影響しないということを確認しております。
0:05:07	続いて 76 ページの方をお願いいたします。
0:05:16	まず資料の掲載順付ってですけれども、海士岬沖断層隊と笹波沖断層大の順番を入れ替えておまして、海士岬沖断層体の評価を先に持ってきております。
0:05:28	またこのページの右側の位置図ですとか、77 ページの文献調査の位置図の方に、文献のトレースが書かれておりますけれども、この海士岬沖断層体ですとか、これ以外の笹波沖断層体泊結城西撓曲、
0:05:44	前野瀬東方断層体につきましては、国交省ほか 2014 の断層トレースを、水色の破線で今回加筆をしております。
0:05:54	次に 86 ページをお願いいたします。
0:06:04	こちら海士岬沖断層体の北東他の評価についてですけれども、文献トレースとの比較も含めて、この 86 ページと 87 ページの 2 ページに、
0:06:15	内容を整理しております。
0:06:17	まず 86 ページの方には、当社の海士岬沖断層隊の北東他の考え方を整理しております。
0:06:24	海士岬沖断層体の特徴としましては、
0:06:27	海士岬沖小隆起体から、笹波沖隆起体の性に沿って分布する。
0:06:32	D層が急に落ち込む位置の基部に推定している撓曲構造からなっております。
0:06:38	このうち、
0:06:40	右の、
0:06:41	断面図の中でナンバー5 測線、
0:06:44	ナンバー5 測線の中では、この撓曲構造に加えまして、笹波沖隆起体の中に変位量の小さな断層構造が併走して確認することができております。
0:06:55	このナンバー5 測線のオク東方延長に当たるN11-1 測線、この上にある測線の断面図ですけれども、こちらでは撓曲構造は見られなくなりまして、
0:07:06	それよりも北ではこの粒子体内の断層構造のみが確認できる測線が続いております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:13	この断層構造については、サトウが 2007 で、笹波沖断層田井東部と分岐の関係にあるというふうにされていることから、
0:07:21	柳北井西縁に分布する当局を海士岬沖断層隊、
0:07:26	流域単位内にある断層構造を笹波沖断層体東部の分岐断層と評価をしております、撓曲構造が認められなくなる。L11-1 測線を海士岬沖断層大の北東さんと、
0:07:38	評価をしております。
0:07:41	続いて 87 ページをお願いいたします。
0:07:46	87 ページの方には、文献のトレースと当社のトレースとの評価の違いについて考察をしております。
0:07:55	文献の方は、図中に赤色で示します地質調査所のアガンと、能登半島地震の際に行われた、緑色で示すブーマーを用いて評価を行っております。
0:08:06	申しわけませんここで 1 点修正ございまして、上の本文中にアガワ測線を示す灰色凡例が灰色になっているんですけども、図の凡例である赤色が正しいので、こちらについては次回の資料で修正させていただきたいと思っております。
0:08:24	説明に戻らせていただきまして、当社このアガン測線のブーマー測線に加えまして、図中でオレンジ色で示しておりますスパーカーを用いて評価を行っている。
0:08:35	先ほどご説明いたしました、ナンバー 5 測線はスパーカーでございまして、こちらでは、深いところまで確認できるということから、当局と断層の二つの構造が、当社としては確認できる。
0:08:49	ただ、一方文献の方はですねブーマーのみで確認をしていることから、この深い部分の撓曲を認識しておらず、隆起体内の断層だけを認識していると。
0:08:59	考えられるということから、一つの構造として評価しているというふうに判断をしております。
0:09:07	この次の 88 ページから 108 ページの方には、今ほどの評価の根拠として、いたしまして、海士岬沖断層体と笹波沖断層体等の
0:09:17	分岐断層を確認した測線を掲載しております、各測線における解釈ですとか、認められた構造の連続性等について、整理して記載をしております。
0:09:31	続いて 138 ページの方をお願いいたします。
0:09:39	こちら笹波沖断層田井西部の

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:42	南西端付近にある、局所的な変形構造について、
0:09:47	の説明になりますけれども、こちら断面図のほうに、僥曲を推定した位置の根拠といたしまして、傾斜変換点を繋いで補助線を加筆しております。
0:09:57	この 139 ページ次の 139 ページの南方に位置する変形を確認したエアガン測線につきましても、同様な観点で推定した位置を、
0:10:09	補助線で示しております、これが 138 ページの平面位置に落とした位置となっております。
0:10:15	これによってエアガン測線で推定した変形が、このNo. 101.5 測線よりも東側に位置していると。
0:10:22	いうことを確認しております。
0:10:26	続いて、221 ページの方をお願いいたします。
0:10:36	こちら 221 ページから 224 ページには、先ほどご説明いたしましたM△図によって相対的に影響が小さいと判断した断層の評価結果、
0:10:48	のみをつけておまして、詳細なデータにつきましては補足資料の方に添付をさせていただきます。
0:10:54	30 キロ以遠の断層につきましても、同様な整理を行っております。
0:11:00	続いて 313 ページの方をお願いいたします。
0:11:12	313 ページ、パッケージ釜山系Z4 の評価結果になりますけれども、こちら、評価の結果の中で、傾斜方向が異なるため、連動する可能性が低いと。
0:11:22	していた記載につきましては今回削除いたしまして、文献の評価である文科省が 2016 の評価結果を反映し、連動を考慮すると。
0:11:31	いうふうな記載に見直しを行っております。
0:11:35	続いて 320 ページの方をお願いいたします。
0:11:45	これはケージと 3 横断します。N-112 測線、右の上の測線の断面図になりますけれども、こちらの評価になりますけれども、前回のヒアリングでは、左の平面図で、
0:11:57	0Z3 とした文科省のトレースと、右の断面図から読み取った構造位置が異なっているということで、左の平面図には文献のトレース位置、
0:12:08	断面図には当社の評価位置が示されておりました。
0:12:11	今回はいずれも文献の位置を示すこととしておまして、岡村 2007、国交省、文科省の断層トレース位置を断面に加筆しております。
0:12:21	断面図中の 17 時 23 分の 1 には、いずれの文献も構造を推定していると。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:28	また 17 時 40 分の位置にも、岡村 2007 が向斜軸を推定しておりまして、さらに、ちょっと 2 ページほど戻る 318 ページの方で、文科省が、
0:12:39	経営 Z3 を推定した断面の I3 測線が示されておりますけれども、この I3 測線の構造の延長位置がこの 17 時 40 分 320 ページの 17 時 40 分の 1 に、
0:12:51	当たります。
0:12:53	これらのことから、これら二つの構造がいずれも系列 3 に対応するというふうに我々判断しておりまして、この時文科省 2015 が示しています平面的な断層トレースの位置を、
0:13:05	当社の断層位置として評価をしております。
0:13:10	次に 333 ページの方をお願いいたします。
0:13:20	こちら小断層群の評価結果となりますけれども、黄色枠内の方に強カスパーカーエアガンで音波探査記録を踏まえまして、地下深部まで連続するものではないと、小断層群、小断層が地下深部まで連続するものではないと。
0:13:34	判断してることがわかるように記載を今回見直しております。
0:13:38	また次の 334 ページの方には、隣接する測線で明らかに性状が一致する断層は認められないと。
0:13:46	で、それによる連続性に乏しいということから、平面的な断層トレースを示すことは難しいと。
0:13:52	いうことを、今回追記をしております。
0:13:56	2 章の変更点は以上となります。それで 3 章の変更点についてご説明いたします。
0:14:02	372 ページの方をお願いいたします。
0:14:12	連動の表ほぼ当社の連動評価の検討方法につきまして、これまではステップ 2 で確認した国の連動評価事例からこの 4 項目のデータをもとに評価を行うと。
0:14:25	いうふうにしていましたけれども、各調査結果をもとに、総合的な評価を行うこととしまして、国が連動評価に用いている項目も考慮するというふうな方針に変更しております。
0:14:38	また 374 ページの方、お願いいたします。
0:14:43	これは 374 ページから 377 ページにかけてまして、北海道南西沖地震と中越沖地震の事例を整理しておりますが、こちらは参考扱いといたしまして、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:55	断層面の傾斜方向の異なる場合の連動ケースを検討する際の着目点というふうに今回整理をしております。
0:15:05	375 ページの北海道の南西沖地震の事例の場合、
0:15:09	ですけれども、こちらでは、盛ほかが震源分布だけではなくて、
0:15:14	地下浅部の音波探査記録から、この後、荒田西傾斜、ピンクで示す西傾斜の震源断層が確認できると。
0:15:21	いうことを述べていることから、それがわかるような記載ですとか、図を今回追加をしております。
0:15:29	次の 376 ページの、地下深部で近づく関係にある断層の連動の検討に当たりますは、まず、地下深部の切り合い関係を確認することとしまして、
0:15:41	それが確認できない場合は、教育関係有無によって機材関係を推定するということがわかるような記載。
0:15:50	夫婦にわかるように記載を見直しております。
0:15:55	それでは次に、個別の連動ケースの変更点についてご説明いたします。まず 380 ページをお願いいたします。
0:16:08	こちら福浦断層と兜岩沖断層の連動の検討結果を整理した表になっていきますけれども、
0:16:15	前回のヒアリングでも案は示させていただいたんですけれども、調査手法ごとに検討結果を整理し直しまして、それらをもとに総合評価を行って連動評価を行うと。
0:16:26	いうふうに整理をしております。
0:16:28	こちらは他の検討ケースについても同様な整理を行っております。
0:16:34	次に 381 ページの方では、福浦断層と兜岩沖断層の地質地質構造の違いがわかるように、記載を少し見直しております。
0:16:46	続いて 384 ページの方ですけれども、
0:16:50	こちらは買うと岩木断層が、東傾斜の逆断層であると。
0:16:55	いうことを、音波探査記録から直接判断できる記録を示しております。
0:17:02	こちらの記録では、兜岩沖断層の隆起側に当たる東側の方で、逆断層の特徴である会社構造が見えると。
0:17:10	いうことから、越智方向等も含めまして、東傾斜の逆断層というふうに判断をしております。
0:17:19	次に 385 ページから 388 ページの方には、福浦断層と兜岩沖断層の間で実施した反射法地震探査、海上音波探査、
0:17:29	を示しておりますけれども、こちらに断層が認められないと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:32	いうことを確認しております、両断層に連続するような断層がないと。
0:17:37	いうことを確認したことがわかるように、記載を見直しております。
0:17:43	続いて 389 ページの方をお願いいたします。
0:17:49	こちら福浦断層と兜岩沖断層の地下深部における断層形状と位置関係の検討結果になりますけれども、
0:17:57	両断層の地下深部の切り合い関係がわかる深部のデータはないので、今回共役の検討を行うと。これによって切り合い関係を推定しております。
0:18:07	検討の結果、両断層が共役の関係なく、いずれか一方、地下深部の地震発生層において連続しないと考えられますことから、両断層がともに震源断層として活動することはないと。
0:18:19	いうふうに判断をしております。
0:18:23	次に 393 ページの方をお願いいたします。
0:18:29	こちら碁盤島沖断層とトリガ湾岸断層の連動の検討になりますけれども、このうち 5 番、碁盤島沖断層の傾斜方向につきましては、
0:18:39	先ほどの兜岩沖断層のように、逆断層を示す直接的な音波探査から示す、
0:18:47	示せるような特徴が確認できないということから、現在の応力場ですとか、能登半島周辺の断層の形成メカニズムのほうを考慮しますと、逆断層であるということが推定できますので、
0:18:59	そちらについて今回追記をしております。
0:19:03	また 395 ページの方には、この碁盤島沖断層を、深部まで確認しております。アガワ測線を追加をしております。
0:19:14	別に 425 ページの方をお願いいたします。
0:19:21	こちら海士岬沖断層と笹波沖断層田井東部、
0:19:25	の連動の検討結果の中で、海上音波探査結果を整理したページになりますけれども、
0:19:31	右下の四角の 2 丸目で紫Gで記載している中になりますけれども、
0:19:37	笹波沖断層田井東部の分岐断層につきましては、笹波沖断層大東部の活動に伴い、付随的に動いたもので、震源断層ではないと判断されることから、
0:19:48	エンドウの検討対象には含めないというふうな記載をしておりますけれども、
0:19:52	ちょっと今回震源の差ではないというところまでは、今回のデータからは主張できないこともありましてちょっと連動の検討対象に含めないという

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	表現につきましても、あわせてちょっと次回修正させていただきたいとこちら思っております。
0:20:07	次に 433 ページの方をお願いいたします。
0:20:15	こちら海士岬沖断層体と笹波沖断層体東部の変位量分布の比較を行った資料になりますけれども、
0:20:22	こちら笹並木断層体東部の分岐断層周辺には、B湾層が分布しないことから、変位量をモンマ保存図には示していないと。
0:20:31	いうことを、追記をしております。
0:20:35	また笹波沖断層田井東部と笹波沖断層体制部の変位量分布の傾向につきましては、前回のヒアリングでは笹波沖断層田井西部の南西部にあります。
0:20:46	三条の当局間の変位量をそれぞれプロットした状態で検討を行いまして、変位量分布が北東方向に大きくなって、佐貫断層大東部と連続することから、一連で活動したと、可能性があるかと。
0:21:00	いうふうな結論としておりました。
0:21:02	ただし、この三条の当局間につきましては、深部で繋がっている可能性があることを踏まえたと、変位量としては合算し示す方が適切かと考えまして、
0:21:13	今回、同一測線で複数の構造が認められた測線については、
0:21:17	オレンジ色の塗り潰した丸で合算値として示すこととしております。
0:21:23	これによって定める断層体制部の区間では、中央付近が大きくなりまして、鞍部付近ではその変位量が小さくなるというような傾向が見られましたけれども、
0:21:33	この西部と瀬尾の東部との境界付近の変位量は、変わらず連続する傾向にあると。
0:21:39	いうことから、
0:21:41	一連で活動した可能性は考えられるという検討結果には変更はございません。
0:21:48	ただし海士岬沖断層体と笹田ミュキ断層体東部につきましては、この東部と西部の傾向とは異なりまして、定量分布は連続する傾向にないということで、一連で活動した傾向は認められないというこちらの結論は変わっておりません。
0:22:03	次に 463 ページの方をお願いいたします。
0:22:10	こちら笹野三木断層体と猿山沖断層、アノ猿山沖セグメントの連動の検討の結果の表になりますけれども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:19	こちらのケースにつきましては比抵抗構造についても検討を行ってございまして、この比抵抗構造につきましては、地震調査委員会によって、重力異常分布と同様に、深部の地下構造推定に重要であると。
0:22:31	いうふうにされていることを踏まえまして、
0:22:34	もついているということ、下の※に追記をしております。
0:22:39	でも、400 円。
0:22:41	71 ページから、473 ページの方。
0:22:45	に猿山沖セグメントの屈曲部につきまして震源断層、
0:22:51	ではないというような記載が残っていたんですけども、こちらについては今回削除しております。
0:22:56	ただ、すいません 474 ページの方で、類似した分布形態を示す事例といたしまして、ヤマザキ断層体との比較を行ったページがありますけれども、
0:23:06	こちらについて猿谷榎セグメントの屈曲部を震源断層として考えた場合での、考えた場合だと、離隔距離等の考え方が変わってきますので、
0:23:16	申し訳ありませんけれどもこちらについても、次回ちょっと内容、検討内容については修正させていただきたいというふうに考えております。
0:23:24	次に 477 ページの方をお願いいたします。
0:23:30	こちら外山西側海域断層と、トナミ部屋断層大西部の検討になりますけれども、こちらにあたっては、一番上の本文の方ですけれども、地震調査委員会では示されていない、高岡断層、
0:23:45	都市圏活断層図で示されてる高岡断層も含めまして検討を行うと。
0:23:49	いう旨を今回追記をしております。
0:23:53	最後に、494 ページから 497 ページ。
0:23:58	の方には、先ほどの 2 章と同様に M Δ 図による簡易的な検討で、敷地への影響が相対的に小さいと判断した連動ケースの評価結果。
0:24:08	検討結果のほうを整理してございまして、詳細な検討内容につきましては補足資料のほうに添付をしております。
0:24:16	本資料の説明は以上となります。
0:24:19	今回データ集のほうを、海上音波探査記録を提出していただいておりますけれども、
0:24:25	各断面の方に測線位置がわかる位置図を追加しております。
0:24:30	また、小断層群周辺の音波探査記録につきましても今回追加させていただいておりますし、また連動評価を踏まえまして、各断層間の音波探査記録で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:42	おつけしていなかった部分につきましても追加ですとか、掲載範囲の拡大のほうを行っております。
0:24:49	資料の説明は以上となります。
0:24:54	規制庁の宮脇です。ご説明ありがとうございました。
0:24:58	私の方からコメントをしたいと思います。
0:25:02	まず全般ですけども、今回敷地から離れた、影響の少ない断層ですね。
0:25:11	については補足資料の方にまわしていただいたということなんですけども、
0:25:16	補足資料を見た時にですね
0:25:20	各断層の冒頭に、本資料の方では、
0:25:27	この概要、評価結果の概要っていうのが入ってたと思うんですけども、
0:25:31	例がないんでちょっと見づらいということがありましてちょっと重複して恐縮なんですけども、
0:25:38	概要だけ
0:25:41	概要の方は補足資料の方に入れていただけないでしょうか。
0:25:48	北陸電力1社です。承知しました。概要のほうも補足資料の方に一緒に添付させていただきます。
0:25:54	はい。よろしく願いいたします。
0:25:57	あと本資料のですね、14ページの、
0:26:04	断層
0:26:05	検討男子、検討対象断層の組み合わせで連動を考慮した場合のMTLの図を、
0:26:13	示していただいているんですけども、
0:26:16	これで
0:26:19	福浦断層と兜岩沖断層の連動、
0:26:24	だけが示されていないんですけどもこれはプロットできなかった何か理由とかってのはあるんで、
0:26:34	うん。
0:26:39	北陸電力木村です。福浦断層と兜岩沖断層につきましては、
0:26:46	併走しておりまして、連動したとしても、
0:26:52	全体としての断層長さが、個別断層の長さを、
0:26:56	超えることはないということから、
0:26:59	ということと、あとそれから敷地近傍にあるということから、もうこのMΔ図で比較するまでもなく、敷地への影響が大きいということから、この

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:11	比較、
0:27:12	下、このM△図にはつけておりませんでした。
0:27:16	ですけども、
0:27:18	併走する断層としまして、
0:27:23	能登ニワ檀断層と酒見断層ですとか、眉丈山第2断層と邑知湯内縁断層。
0:27:29	こういった示し方で、よろしければ、同じようにプロットすることはできますので、
0:27:38	そのようなやり方で、
0:27:41	プロット、
0:27:46	次回一般をさしていただきたいと思います。以上です。
0:27:50	はい、了解しましたちょっとプロットの方
0:27:53	工夫して検討していただけないでしょうかよろしくお願いします。
0:27:57	この前、資料全般について、規制庁側から何か、
0:28:01	コメントありますか。
0:28:07	シートノダですけど、今宮脇から確認させていただいて2点目。
0:28:13	兜岩と福浦のところは、
0:28:17	M△図にプロットしてもいいですけど、
0:28:23	モリ中で、
0:28:25	そんな大きくないっすよね。
0:28:27	なんか、
0:28:29	我々が気にしてる網羅性の観点で、何か抜けが落ちる、抜けがあるのがちょっと、
0:28:35	抜けが落ち、抜けがあることをちょっと確認しているだけなんで、むしろ何か注釈とかの方が、
0:28:42	書きやすいんじゃないかって檜山若書きやすいしわかりやす見るビル側もわかりやすいんじゃないかと思うんですけど、この点いかがですか。
0:28:52	はい。北陸電力の野原です。福良断層と兜岩沖断層をM△に推すしますと、おそらく、敷地からの距離が非常に近いので、グラフ上の
0:29:04	横軸0に限りなく近いところにプロットされると思います。
0:29:08	そういった意味でプロットしたとしても
0:29:12	敷地への影響が大きいということが伝わるといいますので、まずプロットしてみまして、ちょっと見た目を考えてみますけど、
0:29:20	まだ余りにもおかしいところに、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:23	プロットされるようでしたら、今おっしゃる通り、通り注釈をつけて、
0:29:28	敷地近傍なのでっていう理由で書くことも考えていきたいと思いますが、まずはちょっとプロットしたものを見てみたいと思います。
0:29:36	いかがでしょうか。
0:29:37	規制庁野田ですけど、野原さんご説明ありがとうございました。
0:29:40	最後プロットするかどうかおまかせしますけど、
0:29:44	私はプロットすると、変なんじゃないかなと思ってますんでとりあえずお伝えだけしておきます。以上で、
0:29:51	北陸電力の野原です。私もそうなるのかなと思いますし注釈の方で対応するようなことを検討していきたいと思います。
0:30:02	以上です。
0:30:08	個別の断層の評価についてコメントさせていただきます。
0:30:13	まず最初に海士岬沖断層体ですね。
0:30:18	75 ページからの、
0:30:25	この海士岬断層体はですね既往文献。
0:30:31	のトレースだと、
0:30:35	ほとんどのトレースが、事業者のよ分岐断層を含めた
0:30:40	ものを、
0:30:42	を示してるんですけども、
0:30:44	今回この分岐断層を切り離して、
0:30:50	これを笹波沖断層隊の方、
0:30:53	分岐断層、
0:30:54	の方に、の一部とした。
0:30:57	その理由がですね。
0:30:59	十分にご説明されてないんじゃないかなと思います。
0:31:07	あとは、
0:31:09	当初の資料では、
0:31:12	事業者が、南部と中部と、
0:31:15	北部区間、
0:31:16	どういうふうにしてた。
0:31:18	ところを、今回北部に区間について、
0:31:22	分岐断層としたというふうなことが書かれた資料があったかと思うんですけどもそういった
0:31:28	経緯も入れて欲しいと思います。
0:31:35	なんで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:36	えっ。
0:31:37	例えばですね 87 ページの、
0:31:44	これは既往の探査はブーマーしかやってなくて断層を一つにしてっただけでも今回、事業者がスパーカーをやったことによって、
0:31:56	僥曲と断層の、この二つの構造が
0:32:00	確認されたと。
0:32:02	それはまあいいんですけども、
0:32:05	この両断層が接近してるにもかかわらず、
0:32:12	強いて遠く離れた笹波沖断層体の一部と、
0:32:18	この断層の方ですね分岐断層とした理由は書かれてない。
0:32:22	ね。
0:32:26	等、
0:32:28	笹波沖断層体の中に、118 ページですね。
0:32:40	118 ページ 119 ページに、
0:32:45	この佐藤ほか、
0:32:47	2007 が示した余震分布から分岐断層を、
0:32:53	認定したみたいな理由が書いてあるんですけども、
0:32:58	こういったこともですね、
0:33:01	海士岬沖断層体の中で、
0:33:05	示して、分岐断層とした理由というのを
0:33:10	示していただきたいと思うんですけどもいかがでしょう。
0:33:15	北陸電力一緒です。
0:33:17	まず最初におっしゃっていた海士岬沖断層体を我々、当初は北部中南部の三つの区間に分かれて、
0:33:28	現状は中間部と南部の方を海士岬断層タイプしていると。
0:33:33	というような経緯について、前回の審査会合でお付けしたそういう経緯。
0:33:39	載ったような資料につきましても、今回、添付させていただきたいと思います。
0:33:45	また、この笹波沖断層THAIの分岐断層とした根拠ですね、我々としては、やはり、
0:33:54	ブーマーとスパーカーの三田測線見た深さ
0:33:58	数の違いによって、一つ、我々としては、二つの構造が推定できるというふうに考えていますし、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:06	また、柳北井の普通にあるか、中にあるかというところで、でき方が少し違うのではないかというふうなことも考えておりますので、そういったことがわかるような記載につきましても、
0:34:18	追加して、この文献との違いについてもう少し詳しく述べたいと思います。
0:34:23	またその 118 ページ 119 ページにありますような、佐藤ほか 2007Aを用いて、
0:34:31	その明記断層体の本体の方との分岐の関係にあるというところにつきましても、この海士岬沖断層隊の方でも、詳しくこの図等を使って、
0:34:42	説明したいというふうに、
0:34:44	思います。以上です。
0:34:47	はい。よろしくお願いいたします。
0:34:51	規制庁側の方から海士岬沖断層体と笹波沖断層体について何かコメント。
0:34:59	規制庁海田です。
0:35:01	私もちょっとこの辺のと、今宮脇が伝えた古藤と関連してるんですけど、
0:35:09	ちょっと確認をさせていただきたいと思います。
0:35:14	等、
0:35:20	二つの断層分岐断層なんだというところを認めた。
0:35:28	という、評価したことはこれからまたちょっと説明を加えるということだったんですが、
0:35:33	現時点でちょっと確認させていただきたいんですけど。
0:35:37	例えば 87 ページとか、
0:35:41	8687
0:35:43	この辺りを見て、
0:35:47	探査記録を文献。
0:35:50	よりもたくさんちゃんと見て、
0:35:52	日本の構造がしっかり見えたのが根拠として大きいんだっていう説明を
0:35:59	前回も今回もちょっとされてると思うんですけど。
0:36:03	結局日本の構造が
0:36:06	ちゃんと認識できたっていうのは、
0:36:08	ちょっと見た限りこの 87 ページでいくと、
0:36:11	このナンバー5 測線、
0:36:14	だけのようにも見えるんですけど、
0:36:17	日本ちゃんとか見えましてっていう記録っていうのは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:20	どれなんでしょうか。
0:36:23	北陸電力 1 社です。
0:36:25	日本、
0:36:27	とも見えているのは、86 ページに示しておりますこの
0:36:32	六つの層断面の中で、ナンバー5 測線、
0:36:36	だけになります。ナンバー5 測線の
0:36:39	直近の
0:36:41	記録の方を見ると、前後を見ると、ナンバー5 測線の南方にしてるナン
0:36:50	バー5.5 測線ではもう、
0:36:59	断層の方がなくなりますし、ナンバー5 測線の北側北東側にあるN11-
0:37:03	1 測線を見ますと、
0:37:04	当局が見えなくなって断層だけになると。
0:37:06	という状態です。
0:37:07	以上です。
0:37:09	はい。
0:37:11	規制庁海田です。
0:37:18	わかりましたで。
0:37:21	例えばだから 87 ページでいくと、すぐ横のナンバー5.5 測線と、
0:37:24	ナンバー5 の違っているのが、
0:37:36	前回もちょっとこの辺、
0:37:39	何でこうナンバー5 だったら二つ見えてNO5.5 だったら見えないのかわ
0:37:42	ついているのが、ちょっと口頭では説明、前回もあったと思うんですけど今回
0:37:50	もちょっとそれ資料上、
0:37:52	こうなんだっていうところをもう少しこう、
0:37:56	詳しく説明していただかないと、
0:38:04	なんかわかりづらくてですね、ナンバー5 測線の説明が 83 ページです
0:38:09	か。
0:38:12	で、
0:38:15	例えばA層下部まで変位がおよんでるっていうけど、
	どうみたら、A層下部まで、
	変位がおよんでるかとかそれは 5.5 とどう違うのかとかっていうのが、
	また説明を追加されるっていう話もあったんでそのあたり、
	もう少しこう二つこうこうこういうふうに見て、
	日本構造があって、その一つは、
	A層まで切れてるっていうところを評価したとか、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:19	そのあたりもちょっと、ちゃんとわかるように、記載等していただけるでしょうか。
0:38:27	北陸電力社です。
0:38:29	えっとですね各測線の細かな解釈につきまして、今回、この 88 ページ以降につけさせていただいております、例えば、今ほどのナンバー5.5 測線ですと、93 ページの方に、我々の解釈、
0:38:44	書かせていただいております 96 ページの方にはナンバー5 測線の方の解釈の方を書かせていただいております。
0:38:53	例えばこのNo. 5.5 測線につきましては、
0:38:58	もともと我々当局呼んでいます測定ナンバーでいうと 5 番付近でいくと、
0:39:06	B、
0:39:07	Ⅲ層までは、変形までが、変形が認められていると。
0:39:11	益子も変形が認められているんですけどもBII以上には認められないので青色として当局書かせていただいております、
0:39:19	先ほどの、
0:39:21	断層が見えたL15 測線というのが 94 ページに示されておまして、この一番直近で断層が見えていたこのL15 測線で見えた断層の延長部に当たりますのが、
0:39:33	93 ページと測定番号でいうと 4 番付近、
0:39:37	になりますけれども、これが 2 丸目の方にちょっと書かせていただいております、
0:39:41	L15 測線で認められた断層の延長部に当たる測線 4 付近、
0:39:46	では、我々としては映像BII相似岩相のほうに、
0:39:50	変位変形は認められないというふうに判断をしていると、測線の解釈上しているというふうなことは書かせていただいております、
0:40:01	ただ、
0:40:03	鮎川さんがおっしゃられてるような
0:40:05	実際に測線見えているナンバー5 測線との直接的な比較というところまではしていないんですけども、
0:40:12	各測線毎の細かな解釈というのは今回書かせていただいているという状況でございます。
0:40:17	まだちょっとそういう意味でまだ未
0:40:20	比較し、比較して見づらいというところは今回ありますので、そういったところをちょっと工夫して、説明できるような構成ですとか整理の方を考えたいと思います。以上です。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:32	はい。海田です。はい。各々の測線がこう並んで説明されてるっていうのは
0:40:39	は、
0:40:41	こちらの方でも見てます。
0:40:43	ただそのナンバー5 だけがっていうところが、もう少し詳しくわかるようになっていうことをね、今ほどおっしゃったような形でまた、
0:40:53	も工夫していただければと思います
0:40:56	それでええと、もう一つ関連して確認なんですけど 95 ページにこの、
0:41:02	深部だったら見えるのかなと思ってそのエアガンなんですけれども、
0:41:08	エアガンで越冬は結局、
0:41:13	何。
0:41:15	分岐断層って言う方は見えてなくて、
0:41:20	当局のよ。
0:41:23	分岐断層は、
0:41:24	わかかわからなかったという、
0:41:27	ことなんですかねこの。
0:41:29	点線になってるとということなんですけれども
0:41:33	はい、北陸電力一緒です。
0:41:35	おっしゃられるように、この、今回エアガン測線に 6000 つけさせていただいてますけれども、一番近いN-10Wの方で見ますと、
0:41:44	いわゆる我々が僥倖と思っている部分につきましては、推定できると。
0:41:50	ただ、
0:41:51	分岐断層、そもそも度変位がかなり小さいということもありましてやはりエアガン、
0:41:57	レベルの
0:41:59	解像度ではちょっと読めないと。
0:42:01	ただし、このN-10Wを挟むように、ナンバー5 測線とL15 測線の方で、
0:42:10	分岐断層が見えているということから、おそらくここにもあるんだろうということで、点線で分岐断層、赤で示させていただいているというのが、我々の解釈となります。
0:42:23	実際この測線自体は、
0:42:28	井上岡村 2010、文献の方も見ている測線になりますので、おそらくこちらも見たと図示しているとは思いますがやはり一つの構造しか見えないと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:40	ということで文献一つの構造としているのかなというところの一つの根拠になるのかなというふうに思っております。以上です。
0:42:48	海田ですわかりましたこの測線ではちょっとわかりづらくて。
0:42:52	構造は一つ見えててそれは
0:42:56	それをどっちというふうに解釈するかというところの違いはあるけど構造は一つということ。
0:43:03	はい、わかりました。はい。ちょっと吉田ですが補足させていただきます。
0:43:10	なるほど 95 ページの産総研さんの値、アガワについては、これタテ横尾被害って 19 です。非常に圧縮してございます。で、非常に水平方向の解像度ってのはありません。一方今
0:43:24	海士岬沖の特徴はすごく落ち込む構造だと、ソウノというキタノ直近に分岐がある。その距離感っていうのは 1 キロございませぬ非常に近いところに、高分解能の浅部のブーマーとブーマーで、日本がですね確認、
0:43:39	できますのでこの 95 本、5 ページの来出力のエアガンでは、そこまで見えないんですが、ここで少し着色した、紫の線ドイツそ、
0:43:50	その音響基盤の線がやはり今の点線で書いた位置大きく落ち込んでますので、そういった意味からすればすれば、我々の笹波を、陸側にある、
0:44:00	浅見の桐生北井がずっと落ち込む位置の基部にさ、海士岬沖断層体を推定してますので、恐らくはこれ、赤の点線引っ張ってますこれは、海士岬の
0:44:13	構造に対応するっていうのがいえるかと思えます。一方分岐断層というのは、その陸側のその構造よりも陸側の、
0:44:23	流域の内部に、
0:44:24	ある表層の変位として位置付けておりますので、そういった三重ガス意味からすればこの 95 ページのさ、エアガンの構造は、海士岬沖断層体の我々がついてる僥曲をとらえている。
0:44:38	そういう可能性が高いというふうに考えております。以上です。
0:44:44	海田です。わかりました。はい。そういったことで、
0:44:48	説明、
0:44:50	うん。
0:44:51	そういうことが示されていることはわかりました。はい。以上です。
0:45:04	あ、規制庁の大井です。
0:45:06	私から 2 点ですけど、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:10	ですね。
0:45:12	笹並木断層体が分岐しているものの間、笹野ミュキの本体と分岐の間辺りの、
0:45:21	結果についてなんですけど、
0:45:23	これは 107 ページは 108 ページで、
0:45:27	笹野ミュキ断層の分岐の延長部で、隆起体がこうあってほとんどそれ見えないっていう、笹野三木断層が見えないっていうような、そういう結果が示されておりますが、
0:45:38	3 のその他、
0:45:41	この
0:45:42	今最初に言った、本体と分岐断層の間あたりっていうのはみんなこんな感じの結果ということでよろしかったでしょう。
0:45:50	確認をね、確認させてください。
0:45:53	北陸電力石田です。
0:45:55	今、
0:45:56	おっしゃっていただいた 107 ページですか 108 ページのものの止めの測線につきましては、基本的にいわゆる断層を確認した、連続性を追っかけていった延長位置で見た。
0:46:09	ものでこのなL6 測線ですがナンバー171s測線だと、いわゆる分岐断層がなくなっているということを確認しております。
0:46:17	さらにこの本体と分岐の間、
0:46:20	の測線っていう意味で言いますと、
0:46:23	個別の方ではなくてですね、連動評価の方に、
0:46:30	等その測線記録をおつけしているんですけども、例えば 431 ページ、
0:46:41	431 ページに、K-25 測線とN102-1 測線というものがあまして、計 25 測線はどちらかということ、海士岬の中間部の延長位置との間の測線になりますけれども、
0:46:54	N102-1 測線というのがまさに笹波の本体と分岐の間を通る測線になっていましてこういったものを見ますと、
0:47:03	特に、
0:47:04	断層らしい変位変形は認められないというふうな評価をしております、そういった意味でも、少なくとも浅部の方にはなくて、新聞の方で繋がってるのではないかというような、
0:47:16	解釈をさせていただきます。以上です。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:19	規制庁の大井です追加の説明等もありがとうございます 431 ページで、その間の、
0:47:25	一つの属性について確認できました。
0:47:28	もう 1 点この間、えっとですね、じゃあ新聞はどうなのかっていうところで、ちょっと 119 ページで、
0:47:36	佐藤ほかを引用されていて分岐と等、本体の
0:47:41	余震分布のプロットされてますけどこの裏っ側にこの
0:47:47	何ですかね
0:47:49	深部の音響探査のデータがございしますが、これちょっと引用なのであれかもしれないですけどこれって、ちょっと事実確認なんですけど。
0:47:56	事実というか
0:47:58	サトウほかの論文とかでも、この音響探査から、
0:48:04	分岐と本体っていうのは識別がされている、いるのかいないのかってのは、
0:48:10	認識、確認はされて、
0:48:13	いるのでしょうか。せ、マツオまたカトウ他でも言ってるかと言ってないのかっていうのはちょっと。
0:48:18	すいません、私論文をまた読んでないんですが、
0:48:21	それは、
0:48:23	どういう見解なんでしょうか、ちょっと教えてください。
0:48:28	北陸電力 1 社です。
0:48:30	こちら、文献としましては、
0:48:34	当然このラインBの解釈についても、
0:48:39	は、この本体で言うと佐藤ほか 2007Bになるかと思えますけどもその文献で、詳細な解釈行われてまして、そちらでは、分岐断層とまでは、
0:48:51	記載されて日本、解釈はされていますけれども、
0:48:55	分岐断層どういう記載まではしていないと、この分岐している形状にあるかどうかというところは、震源分布を用いて、サトウが解釈しているものというふうに我々判断しています。以上です。
0:49:08	規制庁の大井ですシェア震源分布の方から、深部ですね、の方から御社は解釈してるということを再確認できました。ありがとうございます。
0:49:18	私からは以上、この点は以上です。
0:49:30	それ、規制庁の宮脇です。
0:49:35	と後ですね、個別の断層で確認させていただきたいのは、
0:49:41	348 ページの、砺波平和断層

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:45	なんですけども、
0:49:52	この断層の長さを、事業者は、地震調査委員会が 2000、2008 が、
0:50:02	示している長さ 26 キロというのを踏襲してるようなんですけども、
0:50:08	これを見ると
0:50:13	ちょっと事実関係を、は、確認したいんですけども。
0:50:16	この高岡断層ですね、五藤ほか 201 号が示してるウタ高岡断層っていうのは、
0:50:25	この地震調査委員会が評価したときには、考慮され、考慮されてなかったっていうことで欲しい。
0:50:34	栗城電力の小林です。
0:50:36	はい。今おっしゃられましたように、地震調査委員会 2008 年に出ておりまして、その時点では、田子断層は考慮されておりました。
0:50:44	その後、2015 年に出ました都市圏活断層図で、高岡断層が示されたという関係になります。以上です。
0:50:53	はい。
0:50:55	2015 年、
0:50:57	以降に何か評価したとかっていうふうな文献っていうのはないんですか。
0:51:15	はい。北陸電力の小林です。2015 年に都市圏活断層図で、多忙可能性を書かれておりまして、その後は、
0:51:23	タカオ断層を再評価した文献というのはありませんでして、先ほど医師の方からご説明しました、最近出ました。
0:51:33	田山。
0:51:34	福野。
0:51:36	20 万V-1 の地質で、都市圏活断層図の記載を引用するような形で、
0:51:44	タカオ断層が書かれておりますが、タオカ断層を詳しく再評価している文献というの、ないという状況になります。以上です。
0:51:53	はい。規制庁の宮脇です。
0:51:55	そうすると
0:51:57	多分、
0:51:58	トナミ部屋断層体の北淡分を、
0:52:01	決める際に、この高岡断層っていうのは、
0:52:06	この種
0:52:07	資料の中で、
0:52:09	ちゃんと議論されてますかね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:11	何かどっかに書かれてる。
0:52:16	はい。北陸電力の小林です。
0:52:18	今のですね、トナミや西武、
0:52:21	の資料には、確かに今書いておりませんでして、今、
0:52:26	田子断層について記載しておりますが、内野の連動のところになりまして、
0:52:31	ページで申しますと、
0:52:36	481 ページですね。
0:52:44	481 ページの、
0:52:47	外山ニシウラ会議断層と波平断層財政部の連動評価のところ、高岡断層を取り上げておりまして、
0:52:56	その中で、文献の中でもタバタ断層については、
0:53:01	上の四角の 3 マル目ですね。
0:53:04	ミナミ部屋断層体制部の石動断層。
0:53:08	この連続性については、認識が困難とされておりますので、
0:53:13	そういったこともありまして、連動の中では、つなげて評価していないということになります。
0:53:20	で、
0:53:22	例の方では書いているのですが確かにトナミ部屋、断層財政部の個別のところでは、
0:53:28	パフォーマンスの記載ありませんでしたので、そちらの方でも、
0:53:31	タカオ断層に関する記載を加えたいと思います。以上です。
0:53:36	はい。規制庁の宮脇です。
0:53:38	この 481 ページはやはり
0:53:42	前の方に持ってきてもらってですね。
0:53:45	このトナミフェア断層体の北端を、
0:53:49	の議論をちょっと加えていただきたいと思います。
0:53:53	それで
0:53:55	この後藤ほか 201 号の文献ちょっと見てみましたが、
0:54:02	連続するかどうかについては不明だというのはその変動地形学的な観点から不明であると
0:54:10	もう期待してます。
0:54:12	それなんで地球物理学的にとかですねあと地質構造的に、じゃあ本当に繋がらないのかという、
0:54:20	いったことについてもですね、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:23	検討した上で、その北端部を決めたというふうに
0:54:28	いただきたいと思うんですけども、ツカベ
0:54:32	北陸電力、
0:54:34	北陸電力の小林です。今のコメント承知いたしましたので、どういった考 えて、今隣の部屋西部の北端を決めているかということ、タオカ断層 の話も、
0:54:44	含めた上で、記載させていただきたいと思います。以上です。
0:54:49	はい。よろしくお願いいたします。
0:54:51	他に個別断層で確認したいことは、
0:54:58	はい、規制庁海田です。
0:55:01	今日説明ちょっとあった。
0:55:04	320 ページのところの図をちょっと確認したいんですけども、
0:55:10	特にこのN112 測線というところの、
0:55:15	矢印の位置を平面の方にちゃんと合わせましたということ。
0:55:20	ようなご説明だったと思います
0:55:24	そうするとですね、
0:55:26	平面に合わすとそんなのかもしれないんですけども、
0:55:32	これいくつか褶曲があって、
0:55:37	318 ページの上の図を見ると、
0:55:43	この形Z3 っていうのはいくつか褶曲があるうちの一番なんていうか、右 端のところのガクンと落ち込むところ。
0:55:51	もう、
0:55:52	アノ系Z3 なんだと。
0:55:54	なのでこうこう、西上がりヒガシ下がりの
0:55:59	断層で
0:56:01	西傾斜。
0:56:03	になるってようなそういった説明だと思うんですね。
0:56:07	320 ページみたいに
0:56:10	幾つかある。
0:56:12	終局のこうなんか真ん中というか、
0:56:15	その辺りに書いてあると。
0:56:18	今度はまた、318 ページのこの、要は指針分の解釈とまた、
0:56:24	変わってきてしまうように思うんですけども、318 と 20 はこれ、320 っ ていうのは、特にこそそごがないんですかねこ、見た目ちょっとこう、
0:56:34	別の位置に線が引いてあるようにも見たんですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:37	ここはいかがでしょうか。
0:56:41	北陸電力 1 社です。
0:56:43	おっしゃる通り、この 320 ページの
0:56:47	N-112 測線、
0:56:49	のいわゆる 17 時、これは 40 分付近、
0:56:54	のところに、かなり大きく落ち込むような構造見えまして、318 ページに示されております。文科省が継受さん进行评估する判断根拠とした、この I3 測線につきましても、
0:57:09	解釈線ありませんけれどもおそらく記録の
0:57:12	パターン見る限りは同じところ、この 100、112 測線の、
0:57:17	17 時 40 分に対応するような構造を呼んでいるのかなっていうところは判断できません。
0:57:22	実際に建設さんの総合等を考えて延長させてみますと、この N-112 測線の、この 17 時 40 分付近に位置するということは確認しておきます。
0:57:33	ただ同じこの、
0:57:36	A3 の I3 測線を示したモンマ場が 2015 の中で、この継受さんはここだよというふうに認定しつつも、
0:57:47	平面的な位置としましては、座標も示されておまして、320 ページに示すような緑色の平面位置を文科省が 2015 は KZ さんとして、
0:57:58	示しているというところでございます。
0:58:00	我々の解釈としましてはやはり岡村、
0:58:04	2007、もう見ますと、この辺、いわゆる褶曲構造が複数ありまして、この辺一帯を、
0:58:11	トータルしてケース 3 というふうに評価しているのではないかというふうに我々判断しております。
0:58:17	そういうことも含めまして、
0:58:20	我々の評価としましては、最も最新の文献である文科省が 2015 の評価に倣っているというところで、今の系列さんの
0:58:31	平面トレース 1 文科省の平面トレース 1 を我々の評価として用いていると。
0:58:36	いう。
0:58:37	ことになっております。以上です。
0:58:41	規制庁海田です。
0:58:43	わかりました。で、
0:58:45	そうは言ってもこれ、アノ系 Z34 ってこれ

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:50	後の方のページで出てくるんですけど、連動、これは笹波沖の西部との連動、
0:58:59	検討しているとページもあったりしてそれは 318 ページのこの図を、
0:59:06	イノウエをしません 459 ページとかを見ると、
0:59:12	そういうのもあるので
0:59:16	今ほどおっしゃったようなことがちょっと、
0:59:20	この
0:59:21	資料から読み取れる。
0:59:23	文献を重視したっていうところぐらいは読み取れるんですけど、
0:59:29	ちょっとそこら
0:59:31	図によってあんまり食い違いがあるのが、
0:59:36	よくわからないっていうところがあるかもあるので、
0:59:40	その辺マーチャン。
0:59:42	何かわかるような形で考えを書いておいていただけますでしょうか。
0:59:49	北陸電力 1 社です。
0:59:51	承知しました。
0:59:53	そうですね。実際そのトレースとしましては系列さん。
0:59:57	我々としては、いわゆる断層モデルといいますかまだその長さとしては評価していくんですけども、
1:00:04	感覚としましてはどちらかというこの岡村 2007、
1:00:08	の、
1:00:09	いわゆる褶曲構造たち。
1:00:11	のいわゆる断層体というような形になるのかもしれませんが、そういった形で評価していくことになると思います。
1:00:19	ただ、今の連動評価ですね、笹波沖断層への連動評価に当たりましては、当然この、
1:00:26	KZさんの
1:00:28	当たるI3 測線を使っても評価、当然していますけれども、こういった岡村島の岡村が示す褶曲で向斜軸、
1:00:38	と連続しないかどうかという観点でも、我々地質構造の連続性例えば 460 ページ、
1:00:44	とかを見ていただきますと、笹波とこのクレッドさんの紫で示す岡村の示す、
1:00:51	終局。
1:00:52	構造とも連続しない。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:56	ということも示しておりますので、そういった意味で、ちょっと、
1:01:00	どういうふうに表示するかはまた検討させていただきたいと思えますけれども、
1:01:04	そういった意味で検討もしておりますので、
1:01:08	この計算の表し方については再度検討させていただきますし、どういうふうな考え方でこの系列を認識しているのかというのをもう少しわかりやすく記載したいと思えます。以上です。
1:01:19	海田ですはいわかりました検討はなされてるっていうのわかりますんで、ちょっと図によって、食い違いがあるように見えないようにちょっと、
1:01:30	記載等をちゃんとしておいていただければと思えますので、よろしくお願 いし、
1:01:35	この点は以上です
1:01:41	藤規制庁ハラダです。
1:01:43	KZ3KZ4 について 1 点確認させてください。313 ページに、系統 4 時計 Z3 の
1:01:53	断層が書かれてますが、この灰色の
1:01:58	この字型っていうかこれは断層面を表しているのではないっていうこと でいいですか。
1:02:05	ちょっと意見する断層。はい。
1:02:08	すいません北陸電力 1 社です。すいません。おっしゃられる断層面を表 してるわけではなくて、その感じ範囲を表すための補助線のつもりで記 載しております。以上です。わかりました。
1:02:21	ちょっと断層面にちょっと見えてしまったりしたんですが、
1:02:26	わかりました。ありがとうございます。
1:02:29	あ、北陸電力一緒です。314 ページのような何かちょっと、
1:02:33	明らかに補助線とわかるような書き方に直したいと思えます以上です。
1:02:37	よろしくお願ひします。規制庁原田ですよろしくお願ひします。
1:02:49	規制庁の宮脇です。個別の断層の確認は、これぐらいですので次に、
1:02:56	追加の連動評価についてコメントをさせていただきます。
1:03:02	まず 374 ページ。
1:03:05	と、
1:03:06	それから 300、
1:03:09	76 ページのですね。
1:03:12	地下深部に離れていくと考えられる断層の連動検討にあたっての着目 点というところなんですけど、これタイトルの、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:22	冒頭に括弧書きで参考って書いてあるのは、
1:03:25	これは何か理由があるんですか、参考と。
1:03:33	北陸電力の木村です。我々
1:03:38	断層の連動評価の検討方法としましては、
1:03:42	大きな方針としましては 302、72 ページの方に、黄色の箱書きの方で書いておりますように、既存文献の調査、
1:03:53	変動地形学的調査、地質調査、地球物理学的調査の
1:03:57	結果による、地形及び地質構造、断層の活動履歴等に基づき、連動の有無について総合的に評価を行うということを、基本的な方針としております。
1:04:10	ですので、この 374 ページ以降の検討につきましては、
1:04:18	参考で書かさせていただいておりますけども、372 ページの
1:04:26	各文献地形、地質、地球物理学的調査で、年度の評価を行うというのが基本で、374 ページ以降については、
1:04:38	1、具体的なケース、1 例としまして、
1:04:45	地下深部で離れていく関係にある断層ですとか、地下深部で近づいていく関係にある断層、
1:04:53	こういったものについて、どういう検討を行うかということ、
1:04:59	の具体的な例として、記載したというものでございますので、
1:05:05	我々基本的な方針としては 370 人に書いてあるという、
1:05:10	そういった意味から、参考という記載をさせていただいております。以上です。
1:05:16	規制庁の宮脇です。
1:05:18	とはいえ
1:05:20	断層面の誓いの連続性とか形態を判断する際にですね、
1:05:26	事業者がこの考えを重要な根拠として、
1:05:30	利用されてるわけですね。
1:05:33	そういうのでしたら、数参考という位置付けはおアノか。
1:05:38	必要ないんじゃない。
1:05:46	北陸電力の野原です。今ほど木村から説明あった通り、我々、
1:05:51	375 ページに基づきまして、総合的な観点から評価を行うこととしております。その中で 374 ページですとか 376 ページという考え方も、場合によっては用いているということで、
1:06:04	参考とさせていただいておりますが、
1:06:06	今ほど、宮木さんおっしゃる通り、重要なところで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:11	こういった着目点用いておりますので、参考という文字を必ずしもつける必要はないと思っております。
1:06:21	以上です。
1:06:22	はい、じゃあ、この参考というのは、
1:06:25	を削除するということをお願いします。
1:06:29	はい。
1:06:33	規制庁野田ですけど。
1:06:35	今野原さんの方から、74と70376サンゴを取るっていうお話があったんですけど、そうすると今度、
1:06:45	372の本社が今設定しているエンドウ評価の検討方法も変えられるっていうことですか。えっとですね、一言で言う、一言というか、簡単に言うと、
1:06:57	372と。
1:07:00	今、宮脇の方から指摘してもらったこの37476、あとは、これを踏まえた、どこでもいいんですけど、どっか、
1:07:10	399人これあんま良くないなと。
1:07:18	羽生と福浦と兜岩どこだ。
1:07:21	380でもこれ例示的に380これ福浦断層と株、兜岩沖断層のこの検討結果なんですけど、
1:07:29	これが、
1:07:31	す。
1:07:32	整合してないとまずいと思うんですよね。
1:07:34	言っ。
1:07:38	何つつたらいいのかな。
1:07:41	基本は、
1:07:42	372であります。
1:07:45	374と76は参考です。
1:07:48	そういったことも踏まえて、検討結果が示されていないと。
1:07:53	ちょっとこちらとしても、
1:07:55	この
1:07:57	評価の考え、評価の方針と、それに基づいた検討結果っていうのが、どういう重み付け位置付けになってるかっていうのが明確になってないんです。ならないんですね。
1:08:07	だから、すいません今、野原さんが繰り返し、野原さんがこの74と76で、参考取られるっていうことは、302-72の検討方法も、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:19	変えられるという、そういう理解でいいですか、確認させてください。
1:08:28	はい。北陸電力の野原です。
1:08:31	参考とるということは今野田さんおっしゃるような趣旨になると思いますので、372 ページの方に、その 374 ページとか 376 ページ。
1:08:41	の考え方が引用できるような記載を追記して、そのような、
1:08:47	記載に見直したいと思います。
1:08:50	以上です。
1:08:53	ご説明ありがとう。規制庁野田ですけどご説明ありがとうございました。そうするとこれは、
1:09:01	以前の考え方に戻ってしまうということだと私は理解してますし、そうすると、御社はこの 374 とか 76 を、
1:09:11	基本的には、72、これが多分基本、その連動評価の基本的な考え方になるんで、それ
1:09:20	考え方になるんで、すべての連動について、こういった考え方でやられていくっていう、そういうふうに私は理解するんですけど。
1:09:31	御社ではそういうやり方に、そういうやり方とかこれだから、前回のやり方に戻るモードもど戻る。
1:09:39	戻るっていうことで、
1:09:41	よろしいですか。
1:09:42	次回もうこれけえっと一審査会合になるんで、この場で確認させてもらっていいですか。
1:10:03	北陸電力藤田です。ちょっと行ったり来たりなって、最初の越して聞いたときに、
1:10:11	その 374 ですとか 376 っていうところが、
1:10:16	ルール化っていうかそういう形では少しどうなんだっていう議論があったかと思ひまして今回は、
1:10:25	いろんな調査データをもとに、
1:10:29	372 の形で総合的な評価をするというふうに今見直し中の繰り返しの説明になりますけども、しましたんで、
1:10:35	ここの資料につけたときは、
1:10:39	この資料を作る。
1:10:40	根拠としてはあくまで 372 を基本にして、
1:10:45	離れていく場合ですかそういったときに、
1:10:49	この教育の関係とかですね、使う場合もありますので、
1:10:54	参考という位置付けにさせていただきました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:57	今
1:10:59	宮脇さん。
1:11:04	野田さんの最後の質問にもあったようにそれをルール化すると全部適用するかというとまたそれはちょっと我々の考えとまたちょっと違うので、
1:11:17	ここを参考って書いたままにしておくことは、それはちょっと、
1:11:22	380 ページに根拠で使ってるんですがおかしいんじゃないかってのはノダさんの。
1:11:26	質問の趣旨でよろしいんですかね。
1:11:30	規制庁ノダですけど、藤さん、ご説明ありがとうございます。はい。その通りです。つまり、この 74 とか 76 を参考とするのであれば、
1:11:40	それは 380 の、こういった検討結果において、
1:11:45	基本的な考え方に基づいてやっているところ。
1:11:49	と、多分この中でいうと地下深部における断層形状の位置関係とかこの辺があると思うんですけど、こういったところここはあくまでも参考で見ているわけであって、
1:11:59	例えばこれをこういった全体を踏まえて総合評価オダな出されるときも、ちょっとこの、
1:12:05	参考としてやってることも、参考としてやられてるんで、他とはちょっと位置付けが違う。
1:12:13	ちょっと根拠としては、例えば、1 ランク下がるんじゃないかと思うんですよ。つまり、
1:12:19	この間、これ後でやると思うけど断層近傍世帯、敷地近傍の断層の評価をやったときも、例えば主たる根拠になるのか。
1:12:31	あとは支持するのか整合するのか、やっぱりその根拠のなんすかね。ランクって言ったらちょっと語弊があるかもしれないんですけど、そういったものがあるわけですよ。
1:12:41	そうずっと、例えば参考でやってるものっていうのは、総合評価の時でも、根拠としてはワンランク下がるんじゃないかと私なんかはそういう整理をしていますので、
1:12:52	そうですね。まず、すみません。お答えするとそういうことです。藤田さんおっしゃる通り、
1:13:00	福福浦と株との評価については我々教育がどうかっていうところの根拠を、380 ページにも入れてありますように、一つの根拠として用いて、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:11	いく考えには基本変わらないので、そういった意味でこの 374、376 ですね。
1:13:19	そういったところろうについては、
1:13:23	格上げするという位置付けで 372 の中に、
1:13:29	織り込むような形でまず考えていく必要があるかなと思いますんでそこはそういった方向で今検討させていただきたいと思います。
1:13:39	規制庁小野田ですけどフジタさん、ご説明ありがとうございますそうですね。380 で御社はこの福浦と兜岩のところで、
1:13:49	深部の地下深部の形状とか位置関係ここを評価、総合評価、総合評価ですね総合評価にあたっての、
1:13:59	断層で主たる根拠に位置付けていきたいということ。
1:14:04	としていることは確認しましたし、従って、
1:14:08	そうですね。そういうことであれば、7476 の位置付けが、
1:14:13	評価の基本的な考え方、考え方における位置付けが変わってくるっていう。
1:14:18	そういうことです。
1:14:19	わかりました。そういった形で資料が出てくることを前提にちょっと私の方でも、もう 1 回、評価の考え方と、それに基づいた検討結果、総合評価のところの頭の整理を、
1:14:33	して、審査会合に臨もうと思います。
1:14:50	はい。よろしいですか。
1:14:52	規制庁の宮脇です。
1:14:57	ちょっと私の方からは、
1:14:59	378、すいません。
1:15:01	北陸電力の野原です。よろしいでしょうか。
1:15:05	はいどうぞ。
1:15:07	今ほどの 374 ページ 376 ページの、その参考にするか格上げするか位置付けについてですが、
1:15:16	衛藤今ほど藤田からもありましたが 376 ページの方、こちら、X自治会で近づくケース、これにつきましては、
1:15:25	クーラーの兜の方で、我々、主たる根拠と、主たる根拠といいますか、一つの重要な要素として用いているので、これにつきましては、
1:15:33	参考というのを消して、372 ページなんかある、ある程度、記載をさせていただきたいと思っております。
1:15:42	一方ですね 374 ページ。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:44	こちらにつきましては、今、現状の資料に書いてある通り我々参考としての位置付けで、
1:15:51	考えております。
1:15:53	従いまして次回資料、種見直す際には、
1:15:58	この 376 ページの三輪格上げ、それ 374 ページは参考のままの位置付けとして、資料の方を作成していきたいと思えます。以上です。
1:16:11	はい、承知しました。よろしくお願いいたします。
1:16:15	今田で他の 376 ページなんですけども、この考え方も、ちょっと、
1:16:21	したいんですけども、
1:16:23	共役断層のときは地下深部まで、両断層とも連続しているという考えなんですけども、
1:16:32	この右側の、この高角度の場合なんですけど、
1:16:37	この地域の高角度の断層っていうのは
1:16:42	事業者の最初の方で説明してあったように
1:16:45	日本海拡大Gの院長場でできた、これもまた正断層、
1:16:51	清野、正断層、
1:16:54	高角度の正断層って考えることもできるかと思うんですけども、これが両側から押さえ、両方とも動くような、
1:17:03	気がするんですけどもこの点は、事業者はどのように考えてるんですか。
1:17:10	北陸電力の木村です。今ほど宮脇さんおっしゃった通りですね、濃度半島に分布する断層といいますのは、
1:17:20	この資料の最初の方の 1 章の、
1:17:27	そうですね 300、違う。
1:17:30	34 ページから、
1:17:32	36 ページの方に記載しておりますように、まだ日本海、
1:17:36	の拡大時の伸長力まで形成された。
1:17:40	清断層が、逆山逆断層として再活動しているということで、
1:17:45	高角な逆断層が主に分布しているという特徴を持った地域となっております。
1:17:53	そういったことから、この能登半島周辺に分布する断層については、工学、
1:18:01	な断層ですので、このように、376 ページのように、
1:18:07	併存する。
1:18:09	二つの断層が、深部の方で近づいていく関係にある場合、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:15	これはどちらも高角の断層であるというふうに考えられますので、高角同士であれば、右のように、共役の関係にないと。
1:18:26	いうふうに考えられます
1:18:28	ですので、能登半島に分布する断層については、
1:18:33	すべてほぼすべて、
1:18:35	右の 376。
1:18:38	右の
1:18:40	用薬品の関係ない関係。
1:18:42	であるということがいえるというふうに考えております。以上です。
1:18:47	規制庁の宮脇です。
1:18:51	そい院長オオバでできた、その高角度の断層っていうのは院長までできた、正断層っていうのもあるんじゃないですか。ここ、共役断層っていうのは、
1:19:01	そういうのを考えていない。
1:19:05	院長場で、正断層としてできたときは、協約、
1:19:13	の断層として、共役断層としてできた可能性はあります。
1:19:18	ですが今の現応力場で、第 4 紀以降の逆断層として活動しているものについては、共役の関係にないというふうに考えております
1:19:31	以上です。
1:19:33	この左の方っていうのは全く
1:19:38	新しくできた断層のことを示してる。
1:19:40	ということなんですね。
1:19:48	はい。左の方の教育の関係であるものは、そう、そうですね新しくできた断層はこういうような形でできている可能性はありますけども、能登半島周辺には、そのようなものは、
1:20:01	ないというふうに考えております。以上です。
1:20:04	はい。考え方わかりました
1:20:07	ん。
1:20:08	藤。
1:20:13	規制庁海田です。
1:20:15	376 ページの
1:20:18	話は今ほど宮脇も
1:20:22	確認して前回もこれ、
1:20:26	確認もしたんですけど、
1:20:29	ちょっとそれに加えて

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:31	何て言いますかねこうやって近いところで、併走している断層を
1:20:39	連動とか、
1:20:41	モデル化ん時どうしてるかみたいなの。
1:20:45	それが特にこういうふうに傾斜が、
1:20:48	逆で近づいていくようなものについて、
1:20:51	これ
1:20:52	へとステップ、
1:20:53	2とかでいろいろ検討されていく中で、
1:20:58	こういった、何て言いますか併走してるやつについて、どう評価してるか かっていうのは、
1:21:04	なかったんですかねあんまりその辺の、もうちょっと説明の中でないし、
1:21:14	普通の場合連動をどう評価してるかっていう、そういうのは何か調べ られたりはしてないでしょうか
1:21:21	あと実例でもいいんですけれども、はい。
1:21:30	北陸電力1社です。
1:21:32	例えば369ページの方に、ステップ2として、地震調査委員会の方、
1:21:39	整理した表をつけさせていただいています。
1:21:43	その中で、この
1:21:46	確認している項目の中でその他、
1:21:50	というところで、地下深部で収斂する。
1:21:54	と推定ということで、
1:21:57	例えばフジカワ、
1:21:58	左の表で言うと富士川河口断層体ですとか、
1:22:02	右側で言うとああいう滝断層体、
1:22:06	コガ町梶周辺する推定ということで連動するというふうになっているんで すけれども、こういったものを見ますと、
1:22:14	いわゆる、
1:22:15	他の。
1:22:16	調査項目がほとんど。
1:22:18	バーになっていて、わかっていないと。
1:22:21	いうところがあって連動するというふうな考え方をしていると。ただ我々 福浦断層と兜岩沖断層の方で見ますと、
1:22:32	知久千葉構造もある程度わかっていますし、
1:22:37	いわゆる共役半数、共役関係にないということである程度切り合い関係 があるということもわかっていると、ということから連動ではなく、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:47	どちらかが、切られていると、まともに震源断層として活動することはないというふうに判断して連動しないというような評価を行っているという部分になります。以上です。
1:22:58	規制庁海田です。
1:23:00	わかりましたそういったステップ2の辺の話も踏まえて、さっきちょっと少し前に話があったような
1:23:12	ステップさんさんとか、そこに何か織り込んでいく行かれるっていう、そういう流れになるのかなというふうに、
1:23:21	今、認識しましたので、
1:23:25	はい、わかりました。
1:23:34	はい。規制庁の宮脇です。
1:23:42	そして
1:23:55	そしたら
1:23:56	個別の連動評価についてコメントさせていただきます。
1:24:01	389 ページ
1:24:05	ですね。
1:24:07	福良断層と兜岩断層の連動の検討のところ
1:24:12	これは先ほどの検討結果に基づいて切り切られの件。
1:24:19	傾斜角度から、
1:24:21	検討されてるんですけども、この傾斜角度っていうのは、
1:24:27	これ、もう、いや、実測できなかったっていうことなんですかね前の。
1:24:32	ヒアリング
1:24:33	ですと反射断面をよく
1:24:35	解析すると、傾斜角度は、
1:24:38	測定することができるかもしれないという話でしたけども、
1:24:43	できなかったということでもよろしい
1:24:48	訳電力社です。
1:24:50	例えば、384 ページのような、
1:24:54	断面を用いまして、
1:24:58	いわゆる傾斜変換点を繋いで、
1:25:01	傾斜角度を出すという試みも行って見たの。
1:25:06	ですが、
1:25:08	なかなか、
1:25:09	この傾斜かクドウという意味で、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:12	難度というところを示すところまではなかなか難しくて広角というような表現に、我々として今、紹介させていただいているという部分になっております。
1:25:21	ただし、389 ページの真ん中の※の方にも書かせていただいておりますけれども、例えば同じでき方をしているであろう笹波沖断層体ですとか、
1:25:33	加来結城東撓曲のような、
1:25:37	断層、ある程度深部までわかって傾斜角度までわかっているような断層のことを踏まえますとおそらく兜岩木断層も、類似する傾斜がクドウを持っているであろうという、
1:25:49	想定のもと、6 条というふうに、
1:25:53	今後、389 ページの検討上は、させていただいております。以上です。
1:25:59	はい。
1:25:59	推定されたとは想定されたということですね、兜岩については、
1:26:07	この兜岩ダンス、兜岩沖断層を横断するような、大深度の
1:26:15	反射断面とか物理探査のデータですね、
1:26:20	そういったものっていうのは既往、
1:26:22	調査とかではないんで、
1:26:24	この地
1:26:29	北陸電力 1 社です。
1:26:31	少なくとも、地質調書行っているエアガン測線ですね、これについては兜岩沖断層を、
1:26:39	通過する測線は、
1:26:43	なくてですね、碁盤島沖断層はありますので今回添付させていただいておりますけれども、
1:26:48	藤崎木断層のところにはないというのが事実でございます。
1:26:52	ただし、石油公団につきましては、通過している測線ございまして、またちょっとそれについては、1 度、
1:27:02	土肥常務メックの方にもちょっと確認が必要な、掲載するには必要なんですけれども、そういったところで、
1:27:09	傾斜角、判断できないかというところは、再検討する必要値はあるかと思っております以上です。
1:27:18	はい。わかりますももしかしたらその石油公団がデータを持ってるかもしれないということですね。
1:27:24	はい。それについては、入手したりするのは時間がかかるかと思っておりますんで、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:31	必要になったら対応していただくということをお願いしたいと思い
1:27:37	他に何か
1:27:40	ありますか、兜岩
1:27:44	規制庁海田です。
1:27:45	ちょっとこの書いてあることで確認したいところで
1:27:52	382 ページあたりで、
1:27:57	兜岩は、
1:27:58	地質を規制するような可能性がある、というようなことで福浦はそうでもないという、
1:28:06	御説明なんですけど、
1:28:09	例えばその次の、
1:28:11	384 ページとかを見ると、
1:28:18	兜岩っていうのはD2 層っていう、おそらくこれが、その基盤の部分。
1:28:24	なんですけど、
1:28:25	さほどこうずれずらしてるようにも見えないような絵柄になってて、
1:28:30	ちょっとその、さっきの、
1:28:34	方や地質を規制する方や治水実質を規制してない可能性があるというところの、
1:28:40	はどころ辺を見てそういうふうなことを解釈されているのかちょっと、
1:28:46	すいません、ご説明いただけないでしょうか。
1:28:57	北陸電力の木村です。
1:29:01	そうですね、387 ページ。
1:29:08	No8.75。
1:29:11	1 いう、8.75 ニイヅ測線というのを見ていただきますと、
1:29:15	兜岩沖断層サカイに、D II 層が
1:29:22	大きく変異しているという状況が確認できます。
1:29:26	こういった状況が、兜岩沖断層には認められるんですけども、福浦断層にはないということから、
1:29:37	兜岩沖断層は、地質構造を規制、
1:29:42	てる。
1:29:43	可能性があり、フクダ断層は、
1:29:48	率構造を規制するような規模のものではないというふうに考えられるということから地質構造の特徴が違うのではないかと、いうことを記載させていただいております。以上です。
1:30:02	はい、海田です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:30:04	さっきの、
1:30:06	384 ページはNo. 9 測線で、
1:30:12	387 っていうのは、
1:30:15	8.5 とか、
1:30:17	. 75。
1:30:20	8.75 ですか。
1:30:23	で、
1:30:26	その測線の位置によってちょっとさっきの、
1:30:30	384 だったそう違いは、
1:30:33	ずれミスはなさそうに見えてるけど、
1:30:36	87 に行くとずれがありそうだっていうのはこれは何か、場所による違いなのか何か、
1:30:42	探査の種類によって下が見えてるか見えてないだけかの違いなのか、その辺は何かお考え等はあるでしょうか。
1:30:57	北陸電力 1 社です。
1:30:59	先ほど木村がおっしゃったように測線の違い、ブーマースパーカーの違いによって、探査深度が違うということで、多少見え方が違うという部分も、
1:31:09	一つ理由としてはございます。
1:31:12	もう一つちょっと、
1:31:14	岡本福浦のところの資料ではないんですけども、ただ 396 ページ。
1:31:19	の方に、
1:31:22	こちら碁盤島沖断層と戸川断層の連動の検討ということで、
1:31:27	BII層の分布状況というものを、
1:31:30	コンター図にして示した図がございます。こちら近傍の方でも、兜岩沖断層と鳥居阿南断層の連続性の検討の方にもつけさせていただいた図になりますけれども、
1:31:41	こういった図を見ますと、兜岩沖断層の部分っていうところで、D II 層が、
1:31:47	ちょっと、
1:31:49	急激に落ち込むような、
1:31:51	形状を示しているというところもありまして、
1:31:56	フクハラ断層でちょっとこういう図は、
1:31:59	ないんですけども、そもそも現地を見る限り、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:32:03	そういったところは見んいられないというところで、我々としてはこういった
1:32:14	381 ページにあるような解釈を一つしているというところでございます。ちょっとこういった、
1:32:21	図も用いていると、こういった図も頭に入れながら解釈していることがわかるように、この 381 ページ 382 ページに連なるようなところでこういった図を使って説明したいと思います。以上です。
1:32:34	北陸電力の野原です。ちょっと補足させていただきますと、
1:32:38	江藤今野で 396 ページ見ますと、兜岩はD層が落ち込む内に分布している。それに対して福浦は、
1:32:46	D層の中に分布している。
1:32:49	という状況になっております。
1:32:51	で、382 ページの、こちらの表現ですが、
1:32:56	確かに海田さんおっしゃる通り、384 ページのNo.9 測線見ますと、
1:33:02	Dさが落ち込んでいる途中に兜岩沖断層を認められる箇所もありますので、
1:33:08	こちら 382 ページの規制する断層という表現が少し
1:33:13	強い表現になっておりますので、
1:33:15	こちらの方兜岩につきましては、規制する断層ではなくて、0 サノ打ち込み遠近に分布する断層と、そういったような表現、事実に合ったような表現に、
1:33:26	修正させていただきたいなと思います。
1:33:29	以上です。
1:33:33	規制庁甲斐です。わかりましたじゃちょっと表現ぶりはまた、
1:33:38	適切な
1:33:42	方にしていただければと思います。
1:33:45	この地質構造の違いっていうのはこれで何が言いたいかっていうと、
1:33:50	地質構造が違うから連動はし知りませんっていう、
1:33:55	ところかなと思うんですけど、さらに言うと何かその、
1:34:00	例えば 389 ページでいうと、ここ
1:34:04	右左の図があって、
1:34:07	実、これは、
1:34:08	右の方の可能性が高いですとか、
1:34:11	という、そこまで言ってるっていうわけでもないということですかね。
1:34:17	その辺はどう、どうなんでしょうか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:34:21	北陸電力の木村です。今の 381 ページの、
1:34:28	兜岩沖断層とフクダ断層の地質構造の特徴が異なると。
1:34:32	兜岩沖断層の方が少し規模が大きそうだとということをもって、389 ページの
1:34:41	敏感左がどちらかという、右ではないかと、そこまでは
1:34:46	解釈はしておりませんで、最新活動は、どちらが新しいかということになりますと、これ、381 ページだけでは判断できませんので、
1:34:57	右と左、両方の
1:35:00	可能性があるというふうに考えております。以上です。
1:35:06	はい。海田ですわ。わかりましたそこまでの話ではないということ。
1:35:12	承知しました。
1:35:14	それでちょっとすみません話少し戻って、
1:35:19	さっき 300、
1:35:22	ステップ 2 の話で 369 で、
1:35:27	地下で収れんするものについては連動評価してますっていうのが幾つかあったという、まあ、だけどそれは他の要素が全部、
1:35:37	ないのでっていうようなお話があったかなと思います。
1:35:41	この、
1:35:42	三つぐらい連動してますっていうのは連動は連動したとして、
1:35:48	それで、じゃあ、その
1:35:51	2 枚ともモデル化してるのか、断層モデルとして、2 の
1:35:57	断層の震源断層面として、
1:35:59	いやそれは連動するとかって言いながらも、そう、それを考慮してこう、
1:36:04	真ん中に 1 本だけ。
1:36:06	聞いてるとかどっちかを優先して 1 本引いてるだけとか、
1:36:11	何かそれは何かそういったよ、情報あるんですかねこれはもうあくまで長期評価なんでその地震動のときにどういうふうにしたとかっていうのは特になくて、
1:36:23	この辺、もし今わかればなんですけどまた、
1:36:27	ちょっと、
1:36:29	説明いただきたいんですけど。
1:36:32	FLIP電力一緒です。
1:36:34	すいませんこちらの評価事例確認するやつちょっとそういう観点では、
1:36:39	今のところ確認できておりませんのでちょっとこちらについてはちょっと文献を確認させていただいてそういったモデルの置き方ですとかそうい

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	ったところの検討までされているかどうか確認させていただいて回答させていただきたいと思います。以上です。
1:36:55	海田ですわかりました。
1:36:57	そこはあえてそこに特化して
1:37:01	資料化するという、
1:37:03	意味よりはちょっとその辺確認してみたかったということで、
1:37:08	ステップ 2 の検討で何か
1:37:10	今後検討していく中でその辺も言及する必要があるればまたしていただければと思いますので、
1:37:17	はい。
1:37:19	わかりましたこちらの方でもちょっとどうなってるのかっていうのをまた確認してみます。
1:37:25	はい。私からは以上です。
1:37:34	規制庁ノダですけど、私からこの福浦とアノ兜岩のところでは 2 点、まず 1 点目は、さつき宮脇の方から 389 ページのところでは、傾斜角の話があったかと思います。
1:37:48	ここは、兜岩もう福浦も 60 にしている一方で、386 を見ると、兜岩わかんないんで多分これエリアで 60 にしている一方でフクダ 70 にしてるんです。
1:38:03	ちょっとこの辺りは、
1:38:06	なんです
1:38:07	衛藤。
1:38:09	整合性を図る必要はないのかなというところを確認させていただければと思いますし、
1:38:16	これは今後、地下構造の方で議論すると思うんですけど、
1:38:23	形成メカニズムから、
1:38:25	高角度で 60° っていうことが、すべての断層に一律に適用することが適切かどうかっていうのはまた地下構造評価の方で事実確認だったら議論させてもらえればと思います
1:38:37	あと、385 ページ
1:38:43	ここで両断層に連続する断層有無だ、両断層に連続する断層の有無を確認するためってあるんですけど、これは具体的にどういう断層を、
1:38:54	想定して、御社は確認をされているのか。
1:38:58	例えば添層厚であったり、傾斜であったり、
1:39:02	運動センスとか、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:39:04	ちょっとここ、
1:39:05	記載が抽象的なんで確認させてもらっていいです
1:39:11	捕鯨電力の木村です。385 ページの両断層に連続するような断層とい いますのは、具体的に言えば、福浦断層と兜岩沖断層の
1:39:23	間に、
1:39:25	例えば斜交するように、両断層が繋がるような、
1:39:29	断層がないかと。
1:39:31	いうことを確認しております。
1:39:32	もしそういった両断層をつなぐような、連続するような断層があれば、
1:39:39	その連動の評価、
1:39:41	にそういったことも考慮しないとイケないということになりますので、そう いったご断層がないかということを確認しております。
1:39:49	以上です。
1:39:54	野田ですけどご説明ありがとうございました。
1:39:57	そうするとこれは
1:40:00	二つをつなぐという意味ではないってことなのかな。ちょっと車庫へ南北 走向で、
1:40:06	斜交して、
1:40:09	例えば西、西傾斜だったら、
1:40:15	ちょっといまちイメージがわからないんですけど、ちょっと補足。
1:40:20	させていただきますと北陸電力の野原です。
1:40:23	例えば前野セト方断層体のような断層体。
1:40:30	補足資料の
1:40:35	2.4 の、
1:40:36	1 になりますが、
1:40:39	一東方断層ザイゼンは幾つもの細かい断層が、断層群を形成して、一 つの起震断層を、
1:40:47	訂正しております。
1:40:50	で、
1:40:53	こういったものを
1:40:55	幾つもの、このエリアにいろんな走向傾斜のものがあるような断層群です ので、
1:41:02	江藤今野福浦断層と兜岩沖断層の間に、
1:41:06	こういった細々といいますが、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:41:10	こういったようなものが何もないということ、一つの根拠としたいということで、
1:41:17	今の 385 ページのような記載をさせていただいております。
1:41:23	以上です。
1:41:25	野原さん実例を挙げつつご説明いただいてありがとうございます。だからこれ、両断層っていうのは、深部でってことなんすかね深部。うん。
1:41:35	平面的にってことじゃないってことですね。わかりました。はい。
1:41:39	私から以上です
1:41:45	はい。
1:41:46	それでは、規制庁の宮脇です
1:41:49	と、次。
1:41:52	株、
1:41:54	碁盤島ダンス 55 番嶋沖断層と外川南岸断層の連動の検討結果について、
1:42:01	コメントさせていただきます 394 ページと、
1:42:06	395 ページにですね、
1:42:11	これは北陸電力のスパーカーとそれから地質調査所のエアガン。
1:42:17	震度にすると 1000 メートル浅いところで、バックスラストがないということを確認されてるようなんですけども、
1:42:26	事業者がその
1:42:29	北海道南西沖地震の知見を示してるようにですね。
1:42:35	これよりも深いところで
1:42:38	断層が伏在してるということもあるかと思うんですよね。その場合に、
1:42:44	これ、この地域では、これより深い、その反射断面というのはなかったっていう
1:42:53	北陸電力 1 社です。おっしゃられるように、使う方このエリアではこれより下位断面はないというところがまず一つになります。
1:43:01	もう一つですけども、
1:43:06	今、この北海道南西沖地震の事例ということでバックスラストを確認しているんですけども、
1:43:11	375 ページの方に、
1:43:17	いわゆる検討した盛ほか 2019 の文献をちょっと整理させていただいておりますけれども、
1:43:23	雨森他のこの隠れている震源断層西傾斜の震源断層というのは当然震源分布を一つ根拠としていますけれども、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:43:31	もう一つやはり大きな根拠とされているのが、やはり浅部延長位置での海上音波探査を見たときに、
1:43:40	傾斜変換点ですとか、
1:43:44	非対称の褶曲撓曲構造が見られる。
1:43:47	ていうのが、
1:43:49	一つ、
1:43:50	この震源断層から西傾斜の値、震源分布から西傾斜の震源断層を推定した根拠の一つとなっております。
1:43:59	ということもありまして、
1:44:02	こういう、
1:44:03	バックスラスト。
1:44:05	になるような、
1:44:06	でかい震源断層がある場合はやはり地表の方にも何かしらの影響が出ているというのがやはりこのモリ他の大きな成果なのかなというふうに我々考えております。
1:44:15	そういった意味ではこういった 394 ページですとか 395 ページ、
1:44:19	の半田新藤であっても、十分確認できるのではないかと、我々としては考えています。以上です。
1:44:28	はい。
1:44:29	この 375 ページの
1:44:34	この傾斜変換点を緑と、
1:44:37	このピンクの三角印で示されてるんですけど、これは
1:44:42	論文にこのように書かれてるんです。それと事業者の解釈として、
1:44:47	追記してる。
1:44:50	北陸電力伊佐です。下の凡例は我々加筆しましたけれども断面図中に書かれている、この細長い三角は論文中に書かれている。
1:45:01	マークになります。以上です。はい、わかりました。わかりました維持、考え方はわかりました。
1:45:13	きちっとノダですけど、石田さんご説明ありがとうございました。394 ページの上の箱書きの二つ目のところで、最後これ変形は認められないって書かれていて、
1:45:26	これはあれですか例えば、上の音波探査記録でいう、
1:45:29	上、スーパーカーなのかな、Cto層より上とか、
1:45:34	上位の地層とかそういう、
1:45:37	ことで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:45:39	変位変形は認められないとされてますか。ちょっとその、どこの層の話をしてるのかってのが具体的に書かれていないんで、
1:45:46	そこをまず確認させてもらって。
1:45:49	フリック電流者です。
1:45:50	この2 マル目の、この示唆するような変形は認められないというのは、そもそも碁盤島沖断層よりも、北側の地層全体、A層からDISをすべてに、
1:46:01	そういう断層とおっしゃったような変形は認められないという意味で書いています。
1:46:07	ただおっしゃられるようにちょっと、
1:46:09	これだけ読むとちょっとわかりづらいところがありますので、まあな。
1:46:13	何層より下とか、そういったところがわかるような記載を、追記させていただきたいと思います。以上です。
1:46:21	井澤さんご説明ありがとうございます。私の問題意識は、要するにその後期更新世以降の活動を示唆させるようなものがあるかないかっていうところが、
1:46:32	ポイントだと私は思っているんで、従って、少し、どこの層かっていうことまで、記載できるのであれば、範囲であったり、ある、それ入った日水へ、平面的な、
1:46:43	範囲であったり、深部方向、要するに、どこの層までのことを言われているのかっていうことを書いてもらった方がより明確かなと思ったので確認させていただきました。はい。以上です。
1:46:58	オク 09 電カインダです。承知しました。
1:47:10	よろしいですか。
1:47:13	奄美を海士岬沖断層体と悪意大きい東撓曲のですね、103 ページ、118、400。
1:47:23	412 ページから
1:47:32	415 ページ 2 掛けて、同様に
1:47:37	これやがんとかで、バックスラストがないということを確認されてるんですけども、
1:47:44	一方でですね、ここは何か大深度の断面が、
1:47:49	あるんですね 407 ページとかに
1:47:52	この断面はせつかくあるんで、深いところでも、
1:47:58	バックスラストがないということ、これ計坂クドウのことを使うために示されていると思うんですけども、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:48:08	バックスラスト等の保護についても、この断面で検討していただくことはできない。
1:48:16	栗栖電力 1 社です。
1:48:18	406 ページの方に、この
1:48:21	406 ページから 408 ページの文献調査かけての文献調査のまとめを上の方に記載させておりました、記載させていただいております、
1:48:30	その 3 マル目のところに、
1:48:33	海士岬と船用ヒガシ当局がバックスラストとなるような合併症など推定されていないということはちょっと書かせていただいております。
1:48:41	ただ、各断面ごとに、それが主張はできる、できますので、そういったことがわかるように 407 ページとか 408 ページ各ページにこういった記載を記載させていただきたいと思います。以上です。
1:48:56	このバックスラストがどの辺りを通るのかということを図示していただくということでそのあたりにバックスラストアカシキムラないというふうな
1:49:07	ところを示していただいた方がいいかなと思うんですけどもいかがですか。
1:49:13	北陸電力 1 社です。先ほどの野田さんのコメントにもありましたように、我々の、
1:49:19	解釈した測線も含めまして向こうのこういった文献においても、
1:49:26	平面的な範囲も含めましてどの範囲に、バックスラストがないということがわかるような記載ですとか図示の仕方をしたいと思います。以上です。はい。よろしく申し上げます。
1:49:38	ちょっと時間がないので急ぎますけども、次に、
1:49:43	天海沖は、
1:49:46	海士岬沖断層隊と笹沼沖断層対東部の連動ですね 400、
1:49:52	23 ページ。
1:49:57	お願いします。
1:49:59	この表のですね、余震活動のところ聾の記載なんですけども、この余震活動が認められないことから、
1:50:10	現在の応力場では、連動しやすい関係にはないと判断されるというふうな記載になってます。
1:50:17	これはですね現在のその規制基準、
1:50:21	と照らし合わせるとですね、
1:50:23	我々後期更新世以降、最近活動したものであろうが

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:50:30	そうでないものであろうが同一に、
1:50:34	将来活動する、する可能性のある断層として、
1:50:37	非常に判断しますんで、
1:50:41	この連動しやすさ云々っていうのは
1:50:45	あれ。
1:50:45	関係ないと思う。
1:50:47	思います。
1:50:48	なんで、ここは事実関係のみにして、
1:50:53	連動のしやすさ云々っていうところは
1:50:56	削除していただけないでしょう
1:51:00	北陸電力 1 社です。
1:51:01	おっしゃられるようにこの 2007 年の担当自身の実績を基にこういった 記載をさせていただきたいんいただいたんですけれども
1:51:09	おっしゃるように、その 2007 年度地震の際に、余震活動が認められたら 認められないかまでの事実記載までにとどめたいと思います以上です。
1:51:19	はい。
1:51:20	同様の記載がですねどっか別、これ猿山専務。
1:51:26	それ笹波沖断層とは一応猿山セグメントのオカツジヨシカワのところにも 同じ記載がございます。ありますんで、ここも同様に修正をお願いいたします。
1:51:45	あとは区容器西撓曲と笹波沖断層体全長をですね。
1:51:51	443 ページ。
1:52:06	これ、ここも 443 ページから 440。
1:52:10	7 ページにかけて、
1:52:13	バックスラストをとなるような、
1:52:17	構造はないというふうなご説明をされてるんですけども、
1:52:21	ここについてもですね豆腐深井大深度の断面がありますので、先ほどの
1:52:31	海士岬沖断層体と破棄沖ヒガシ撓曲と同様に、ちょっと記載を大進藤で バックスラスト。
1:52:39	ないという。
1:52:40	記載をちょっと充実させていただい
1:52:43	てないでしょ
1:52:46	はい。北陸電力石田です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:52:49	わかりました船用技師と笹波の検討ケースについても同様ですし、この後の笹波吐血産経でということについても同様かと思いますのでそちらについても同様な対応をさせていただきたいと思います以上です。はい。よろしくお願いいたします。
1:53:06	アノか海田です。今ちょっとバックスラストのところの瀬アノ説明も説明充実化していただくのは
1:53:16	その通りなんですけど
1:53:18	さっきちょっと立ち戻るとその扱ってというのは、ちょっとな、なお書きっていか参考程度に、
1:53:26	都丸文、
1:53:28	もので、一応、
1:53:30	は経営者が反対であれば連動しませんっていうところが、
1:53:35	ある程度完結した上でそれは
1:53:38	そのバックスラストが潜んでないかっていうところは、何か参考みたいな扱いにするっていうような話だったと思うんですけど、なので説明のしぶりとか、資料の作り方はその3、
1:53:52	ステップ2とかステップ3と
1:53:55	で、
1:53:57	組み立てた流れに合うような形で作っていただき、行っていただきたいんでその点はよろしくお願いいたします。よろしいですか。
1:54:07	北陸電力伊佐です。承知しました。
1:54:09	現状も、事実記載としましては各ページにこういったバックスラストか危ないという記載はさせていただいてまして、例えば437ページのまとめ表の方にも、
1:54:20	いわゆる調査結果の出力としましては、この437ページですと⑦番として、バックスラストとなるような断層が認められないという事実記載させていただいておりまして、
1:54:30	ただ、
1:54:31	木曾の総合評価といたしましてはいわゆる断層面が離れていく関係にあるよという主張をするための根拠の一つ、
1:54:41	参考データ、他にも、地下深部で断層面が働きかけ関係ということを示す直接的なデータを
1:54:48	支持するデータといえますか、チェックするデータといえますかそうそういう扱い。
1:54:52	になるような、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:54:54	書き方になるように、注意して記載したいと思います。以上です。
1:54:59	甲斐海田です。わかりました。念のためのでしたのはい、じゃあその点よろしくお願いします。
1:55:08	はい。
1:55:09	規制庁の宮脇です。ちょっと私から最後に一つ、細かいんですけども473 ページお願いします。
1:55:18	ここのですね
1:55:21	と、
1:55:24	この破線で、この褶曲構造のところを囲んでいるところの記載なんですけども、
1:55:30	これを読むと、これらノダ褶曲の多くは正断層群の変位を反映した株。
1:55:36	中新統の変形であるとされ、推定されている、このオザキ 20102。
1:55:42	ですね。
1:55:43	逆断層による変形も多く、混在している可能性があるというふうに記載されてます
1:55:49	この逆断層っていうのをこの論文読むと、はっきりは書いてないですけども
1:55:55	活断層の
1:55:57	どうしても、
1:55:58	逆断層じゃなくて、
1:56:00	中期中新世から後期更新世マツノ間逆断層のことを
1:56:04	さしているのだと思います
1:56:07	なんでこれ、
1:56:08	点を少し
1:56:10	誤解のないように、記載を追記していただけない。
1:56:15	北陸電力一緒です。
1:56:17	おっしゃられるように確かにこちら、古い構造になりますのでそういった意味で我々もこういったところの断層、評価に入っていないという部分もありますのでそういったところがわかるように、記載を修正したいと思います。以上です。
1:56:31	はい。よろしいいたします。
1:56:33	私からは以上ですけども、規制庁から何か赤木コメントありますか。
1:56:45	北陸電力から何かコメントありますか。
1:57:00	藤田ですけど、今のところ、こちらの方から確認事項はございません。
1:57:07	とりあえず、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:57:11	周辺海域のヒアリングについては
1:57:14	これで終了したいと思います。ありがとうございました。
1:57:18	引き続き、敷地近傍の資料について確認させていただきたいと思い
1:57:29	はい。いいですかね。はい。
1:57:31	ではですね、説明、
1:57:34	というふうに考えてましたけどもう私、ちょっと読んでますので、
1:57:39	関規制庁の大井ですけど、ちょっと資料の確認内容から入らせてもらいますがよろしいでしょうか。
1:57:50	はい。北陸電力吉田です。それではよろしく願いいたします。
1:57:54	はい。すみません。ではですね 250 ページお願いいたします。
1:58:02	8 月 31 日の敷地近傍の資料。
1:58:08	対してですけど、これ断層の評価結果の
1:58:15	評価結果となっていて活動性評価の方でフローとなっていてまして聞いてはですね
1:58:22	同 1、
1:58:25	すみません、あれ。
1:58:35	すみません評価結果の構成とかも会合での議論を踏まえて、評価結果の位置付けや配色を適切に
1:58:44	修正お願いしますということで、
1:58:48	コンサル根拠と主たる根拠を支持するデータ。
1:58:51	整合するデータ。
1:58:53	活動性を評価することができないデータというふうに分けていただいております。
1:58:58	これちょっと
1:59:01	今ですね、活動性を評価することができないデータっていうのもこの活動性評価の中に、
1:59:06	残ってる状態なんですけど、これは
1:59:11	何ていうんすかね
1:59:14	結局、
1:59:15	適合性を判断する上で活動性評価を判断する上で、
1:59:18	交通、用いてないデータもここに入れている。
1:59:22	入れた。
1:59:23	ていうのは何か、井戸があるんでしょうかちょっと確認させてください

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:59:30	はい。北陸電力巢守です。こちら 250 ページでですね、グレーの灰色の発注をかけたこのデータが、活動性を評価することができないデータと整理、区分させていただいたものになりますけれども、
1:59:42	この四角の中に入れたのとしましては、上の鉱物ねでしたら、鉱物脈法による評価という観点で見に行った時に、確認したデータという位置付けでこの同じ四角に入れては、
1:59:55	おりますけれども、これをでは、その評価に使おうというそういう意図でこの中で同じ四角に入れているわけではなくてですね、同じこの手法というか、くくりで、今比較に入れているだけですので、
2:00:05	ちょっとその辺り誤解がないようにですね例えばこの下の部分は、手法としては同じだけでも評価には使っていないので、枠外に出して、破線の囲みをするですとか、ちょっと差別ができるような形で、
2:00:17	示し方は工夫させていただきたいと考えております。以上です。
2:00:21	はい。ありがとうございます規制庁の大井です。
2:00:24	やり方としてそれでもいいかも。いいと思いますし、これ補足にも、すべて今飛んでますので、これ、
2:00:33	灰色の部分は全部
2:00:36	削除して注釈程度に書くっていうやり方もあるかと思いますが、それはおまかせいたします。
2:00:43	そうそうなるとですね 200、
2:00:48	4 ページ、271 ページの方の表についても、
2:00:53	同様ですので、
2:00:55	これも評価等を用いてないデータを使った状態で
2:01:00	表がまとめられていますのでその辺も適正化をお願いいたします。
2:01:06	続きまして、
2:01:09	283 ページをお願いいたします。
2:01:14	283 ページ
2:01:18	ちょっとこれ確認なんですけど、
2:01:21	ちょっとこれ、私の勘違いかもしれませんが、
2:01:25	283 ページは、会合でも
2:01:29	薄片箇所反対側、
2:01:33	薄片箇所の残った資料で研磨して、
2:01:38	その不連続部不連続箇所確認。
2:01:41	させていただきまして、それが右の方の図としての、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:01:46	あります。これ左側の薄片①の作成箇所っていうのは、この黄色の四角では囲ってるところですね。
2:01:55	これって、
2:01:56	これ反対側でやったんで、薄片の作成箇所の反対側の、
2:02:01	部分を受けましたんでしたっけそれとも薄片を取ったところの、をさらに件削り込んだんでしたっけ、ちょっとその辺。
2:02:10	すいません
2:02:11	会合でも説明あったかもしれませんが、
2:02:14	まず事実確認させて、
2:02:17	はい。北陸電力津守です。この薄片ですね、薄片を作成した箇所を研磨して、同じ場所を見ていただいております。
2:02:26	これちょっとすいません左右反転というのが、
2:02:30	そのあと 285 ページ等に示しているものと、
2:02:33	ちょっと左右判定してるものしてないものがまざってちょっとわかりにくかった教え知らなくてそれは申し訳ありません。283 ページは、右側、
2:02:43	資料の向かって右側に、
2:02:46	薄片①作成箇所が来ているのはその右の拡大は、写真を見たときに、
2:02:58	この拡大写真とですね、その向きが合うような形にするために、ちょっと間反転させなかったんですけれども、この黄色の 1 というのは、
2:03:06	鉤物脈を確認した範囲Aの薄片と全く同じ位置を削り込んだ面を見ていただいております。以上です。
2:03:13	はい。規制庁の大井です。私も会合での議事録読み、読んでももしかしそだったかなっていうふうも、
2:03:20	思いましたけどその確認ですありがとうございます。注釈等で少し書いていただくと読みやすいかと思うのでよろしく願いいたします
2:03:26	また、283 ページの一番右の図ですね解釈線も入れていただいで緑の最新面、
2:03:33	集中せん断面ですかね。それが不連続になる箇所っていうのを、白い点線の丸で示していますが、
2:03:40	これは会合でもですねちょっと拡大していただいけませんかっていうやりとりがあったと思うんですけど、やはりこれ少し今、現状ちょっとちっちゃいなっていうふうに感じするんですが、
2:03:51	これ拡大するとやっぱぼやけてしまうんでしょう。
2:03:58	北陸電力津守です。そうですねやはり間拡大すればするほど少し解像度が落ちる形にはなりまして、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:04:06	その解像度と、ちょっと全体での見え方っていうところのバランスでこのアノスケールというかこのサイズを選ばせていただいたんですけども、
2:04:15	ちょっともう少し、
2:04:18	破線のこの部分ですね、もうちょっと大きく見えないかということも、少し工夫して、写真を撮り直すなりちょっとトライしてみたいなと思います。以上です。
2:04:27	はい。規制庁の大井です重要なこの日、
2:04:31	解釈線、左側の 2 枚ってのは重要な図ですので、この位置図をドイとかしてこの 2 枚でガーッとここで書く。
2:04:39	示すというような、そもそもこの岩井を大きくするっていうような、
2:04:43	そういう資料の作り方もできるかと思いますので、それもよろしくたいお答えをお願いいたします。
2:04:52	すいません引き続き、
2:04:55	えっとですね。
2:04:58	290
2:05:00	2 ページ以降ですね。
2:05:03	これは範囲について、
2:05:05	294 ページとか連続性を確認した上で、
2:05:11	295 ページ。
2:05:14	がこれが一部
2:05:18	不連続面も
2:05:21	一部残ってるところが、
2:05:23	残ってる部分があって、
2:05:27	最新面の認定に影響していないという点については理解いたし、これでいいと思います。
2:05:34	一方でちょっと確認なんですけど 292 ページで、
2:05:38	会合での指摘なんですけど、会合での指摘はこの空隙がですね、
2:05:44	最新面の認定や不連続箇所、
2:05:47	に影響をおよぼしていないことを
2:05:50	資料についことがわかる根拠について
2:05:54	資料の
2:05:55	説明根拠を充実化させてくださいというふうに書いてあって、
2:06:00	要するに 292 ページの紙、直交ニコルの方の下の方、
2:06:04	真子矢印で空隙を通過して、すいません。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:06:08	矢印で、
2:06:10	空気部の矢印が、すいません空隙部に矢印が引っ張ってあって、
2:06:15	2 ポツ目のところにこの最新面は空隙を通過して連続することはないというふうに書かれていますが、
2:06:22	一番私たちが見たいのはその、
2:06:25	何ていうんすかね
2:06:26	不連続部のところの、
2:06:30	空隙箇所、
2:06:31	の、
2:06:32	すいませんそれに最新面、すいません。
2:06:36	に影響していることがないことなので、
2:06:40	えーとですね。
2:06:42	そのあたりも、もう少し
2:06:45	なんですかね、矢印の場所っていうのがちょっと今、この
2:06:49	上の方についてますけど、
2:06:51	御社としてはもちろん
2:06:55	この空隙全体においてす。
2:06:57	最新面が、この区域を通ることはないというふうに解釈してるっていうことは
2:07:02	そういうことで、
2:07:03	認識としてはよろしいですよ。これは、会合でも私たちが我々も確認していることなので、不連続箇所において、
2:07:10	空隙が通って、アクゲキに最新面は通ってないっていうこと。
2:07:13	通ることはないということは確認はしてるのでそういうふうな
2:07:18	ことがわかるようにしていただきたいんですけど。
2:07:21	どうでしょう。
2:07:27	すいません、具体的に言いますと矢印の場所として矢印が伸びてる場所が、
2:07:32	中途半端に空隙の
2:07:34	上間、上の方の真ん中の辺りにあるんじゃなくて、
2:07:39	ウツミ角を右側に伸びているところの、
2:07:43	でき、
2:07:44	分断している。
2:07:46	一番細くなっているところに、
2:07:48	矢印を引っ張っていただけないでしょうか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:07:52	はい。北陸電力津守です。大井さんのご趣旨承知いたしました。我々、今大井さんからもちよつと書いていただきましたけれども、空隙、当然夜久野
2:08:02	ところも含めまして全体の空気が、お刺身が抜けていかないですか、緑の再最初認定に空気が影響を与えていないとそういう、
2:08:12	思い出区域の、
2:08:13	大きなところというところでも、空気全体のつもりで指しておったんですけれども、おっしゃいます通りこの脈の、要は出っ張り、その
2:08:22	区域を挟んで奥にある年度この、
2:08:24	この間のところにちゃんと最初抜けていかないのよねというそういう問題意識が一番、特に重要なところというところのご趣旨かなと思いますので、この場所をさして、
2:08:35	データとしてはそこも含めて全体、
2:08:38	の観察結果を今回出させていただいておりますけれども、特に見ているという意味でこの矢印の先を、今の脈の先端のところの空隙、こういったところを指すような修正をさせていただきたいと思います。以上です。
2:08:50	はい。規制庁の大上です。よろしく願いいたします。
2:08:53	最後に1点ですけど、これは細かい点で、259 ページちよつと戻っていただいて、
2:08:58	断層の地質調査の結果で赤、赤線で断層が左側の図で示されていて、
2:09:07	これ、点線が円。
2:09:09	水、推定区間ですね、北部の方で福村断層、
2:09:15	との交点まで連続するものとして図示したというふうに書かれていて
2:09:20	これちよつと前のヒアリングでも確認があったかもしれませんが、黒点線のフクダ断層と赤点線の、
2:09:27	断層が設置してないという点については、以前ヒアリングでも、
2:09:33	説明があって今回 324 ページに、その
2:09:39	理由っていうかそういう地下深部での
2:09:42	分布だったり標高の違っているのはこれは確認できているんですけど、
2:09:46	259 ページで、そういういきなり出てきた図に対して、注釈として、324 ページにその補足説明があるよっていう紐付けが、
2:09:54	あればなおいいかなと思ったので、その点、
2:09:57	修正いただくことは追記していただくことは可能でしょうか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:10:03	北陸電力津守です。はい承知いたしました。後ろの方に詳細データありますけれども、初出のといえますか一番
2:10:10	早くわかるもの 259 ページのところにもちゃんと後とひもづけできるような形で、わかりやすくお示したいと思います。以上です。
2:10:18	はい。よろしくお願いします。
2:10:20	規制庁の大井ですけどその他のフクダ断層との修正箇所、
2:10:25	及び会合では、常盤長野断層、
2:10:29	の方の
2:10:31	文言の追記箇所っていうのも確認できております。
2:10:34	私の方からは以上となります。
2:10:36	その他何か確認ありましたらお願いいたします。規制庁側からお願いし、
2:10:45	規制庁ノダですけど、すいません時間がないので私も直してもらいたいところ、4 点お伝えします。8 ページ。
2:10:55	コメント一覧で、これ周辺ということで、
2:10:59	次回以降に説明っていうのがあるんですけど、
2:11:03	もう、
2:11:03	これはチン棒に仮特化して、この白い、次回以降説明を取りませんか。
2:11:11	未回答部分をなくしたいっていうそういう趣旨なんですけど
2:11:15	藤田です。承知しました。黄色だけにします。
2:11:20	はい。186 ページ。
2:11:26	上の箱書きの 186、上の箱がさ、三つ目、加筆してもらったんですけど、地形、ルートマップ、反射法探査ってですね。
2:11:35	状況と、なんすかね。成果物と調査が、
2:11:40	ごっちゃになっちゃってるんで、例えば地形で、を固定するんであれば、ルートマップのところは地質状況、
2:11:47	反射法探査んところは地下構造とか、
2:11:49	あともその調査でくるんであれば、地形判読、表土はぎ調査、
2:11:55	地表踏査、
2:11:56	反射法探査とかちょっと統一した書き方にしませんか。
2:12:02	ホリノエミフジタです。
2:12:05	しっかりしたくりで整理し直します。以上です。
2:12:09	はい、ありがとうございます。同じような記者が多分後出てくるんで、同様です。
2:12:14	あと 250 ページ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:12:17	えっとですね。
2:12:19	村崎の整合するデータの香月ことなんですけど、例えばこれ、下の断層の評価だとなお書きで、破碎部性状、切り合い、
2:12:29	反射法探査っていう順番になってるんですけど、右側の
2:12:34	図というかこのフローだとですね、反射法正常、
2:12:39	切り合いってなってるんで、もう私は反射法探査を、ページとの関係もあって反射法探査を一番下に持ってきた方がいいと思うんですけど、この点どうですか
2:12:50	北陸電力藤田です。反射法、一番下に持っていくます。以上です。
2:12:57	はい。ありがとうございます最後 449 ページ。
2:13:03	土岐側ナガタソウノ評価結果のところ、ここは最後、評価としては、安全側の判断として、右側の図でいうと赤線になってるんですけど、
2:13:14	あくまでも地質調査結果としての、北東たんというのはこの今田のところだと思いの、これロカリティへのこの地形、ごめんなさい、地形地質調査に基づく、
2:13:25	断層北端、断層北端、ここもうちょっとなんかおっきな図で強調しませんか。あくまでも地形地質調査ではここ、
2:13:36	でも、安全側の判断として、赤にするっていう、そういう、
2:13:41	論理構成じゃないかと思うんですけど、この点いかがですか。
2:13:48	はい。北陸電力の野原です。わかりました趣旨わかりましたので、ロカリティの表現を供出をしたいと思います。以上です。
2:13:56	規制庁野田です。ありがとうございます。私から以上ですすいません。
2:14:02	確認せずに、修正のところだけ申し上げてすいません。
2:14:14	規制庁の大井です。その他規制、
2:14:17	庁側から近傍に関してのコメント、
2:14:19	ないようでしたら北陸電力の方から何か、
2:14:24	ございますでしょうか。
2:14:28	すいません北陸電力の原です。1 点先ほど海域のところ、海田さんからの、
2:14:36	ステップ 2 の収斂するパターンのモデル化の件、
2:14:41	ちょっと 1 点目はわかったのでそれだけちょっと説明させてください。
2:14:45	よろしいでしょうか。はいどうぞ。
2:14:48	奥陸電力イシダです。
2:14:50	すいません先ほどの海域の資料の 369 ページ。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:15:03	369 ページの、地震調査委員会によるエンドウ評価事例整理させていただいたもののうち、
2:15:09	いわゆる地下で近づく関係にあるものとして、
2:15:14	フジカワく左でフジカワ加工断層体で、右側でIウエキ断層と長尾断層、
2:15:20	っていう話をしたんですけども、もう一つ、右の表の下から2番目で、
2:15:24	金山ダンス羽根大和、植野平山断層体。
2:15:29	亀山。
2:15:30	植野平山断層体ってというのが向かい合うその他のところで向かい合う構造っていう。
2:15:35	これも結局一緒なんですけども、いわゆるし、地下深部で、
2:15:39	近づく関係にありまして、いわゆる北傾斜の断層と南傾斜の断層が向かい合って存在してまして。
2:15:48	それを連動を見ているというケースになります。
2:15:52	これについては断層モデルが検討されておりまして、
2:15:57	いわゆる北傾斜と南傾斜の断層の平均変位速度を比べたときに、ミニミ、
2:16:03	A社の断層の方が、いわゆる主たる構造といいますか、変位が大きいものですからそっちをメインとして考えますというふうなことが明記されておりまして、
2:16:13	基本的には南傾斜の断層だけで断層モデルを作って、検討を行っているというのが、地震調査委員会の
2:16:21	この長期評価のところの、地震予測。
2:16:25	をした結果となっております。で、今の、もう二つにつきましてはちょっとこういった断層モデルルーの検討がすぐに出てこなかったのもうちょっと調べてみますけれども、
2:16:35	今わかったところとしましては、そういった状況です。以上です。
2:16:41	海田です。わかりました。ありがとうございます。なので連動、
2:16:45	ここ、そういったっていうことであれば連動というふうな表現なのかそういった地表形態を考慮して、一つの断層面を
2:16:56	設定したということであれば、
2:16:59	ちょっと表現はどうなるかわかりませんが、状況はわかりました。ありがとうございました。
2:17:11	規制庁の大井です。それではこちらから、こちらと伊セ北陸電力からも確認はないということで、
2:17:19	ヒアリングは終了したいと思います。お疲れ様でした。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。